

# 草加市教育委員会会議録

令和 5 年 第 3 回 臨時会

令和5年草加市教育委員会第3回臨時会

令和5年8月8日(火) 午前9時50分から

高砂コミュニティセンター集会室

○議 題

第40号議案 令和6年度使用小学校用教科用図書の採択について

○出席者

教 育 長	山 本 好 一 郎
教育長職務代理者	小 澤 尚 久
教 育 委 員	加 藤 由 美
教 育 委 員	宇 田 川 久 美 子
教 育 委 員	川 井 か す み
教 育 委 員	峰 崎 隆 司

○説明員

教育総務部長	福 島 博 行
教育総務部副部長	
(兼)子ども教育連携推進室長	河 野 健
教育総務部副部長	伊 藤 寿 夫
教育総務部副部長	
(兼)指導課長	和 田 卓
教科用図書選定資料作成委員会委員長	
教科用図書選定資料作成委員会副委員長	
教科用図書選定資料作成委員会各委員	

○事務局

浅 古 亮 一
小 関 隆 志

○傍聴人 12人

---

午前9時50分 開会

◎開会の宣言

○山本好一郎教育長 ただ今から、令和5年教育委員会第3回臨時会を開催いたします。

---

◎前回会議録の承認

○山本好一郎教育長 事務局から、前回の会議録を朗読願います。

————— 前回会議録の朗読 —————

○山本好一郎教育長 ただ今、事務局から前回の会議録の朗読がございましたが、これにつきましてご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

(「ありません」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 よろしければ承認することとし、会議録への署名を行いたいと思います。

教育長・委員の署名

○山本好一郎教育長 以上で、前回の会議録の承認を終了いたします。

---

◎議案審議

○山本好一郎教育長 ただ今から、審議に入らせていただきます。本日の案件は、議案が1件となっております。

なお、本日お配りしております「令和5年教育委員会第3回臨時会説明委員名簿」のとおり、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明員として出席させますので、ご了承願います。

---

◎第40号議案 令和6年度使用小学校用教科用図書の採択について

○山本好一郎教育長 それでは、第40号議案につきまして、指導課長より説明させます。

○説明員 教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により、市立小学校において使用する教科用図書を令和6年度使用小学校用教科用図書採択に係る発行者一覧の中から採択する必要が生じたため、審議をお願いする次第でございます。

なお、教育長及び教育委員の皆様には今回の採択に当たりまして、令和6年度使用対象教科用図書の出版会社と何ら関係がないということを誓約書に署名いただいていることをお伝え

しておきます。では、これまでの経緯等について、その概略をご説明申し上げます。

草加市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第5条に基づき、教科用図書選定資料作成委員会は、教科用図書調査研究専門部会及び学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケートを参考に協議及び検討を行いました。

令和5年度教科書展示につきましては、草加市立中央図書館で6月16日から7月1日までの14日間、開催させていただきました。保護者一般232名、学校関係者563名、教育委員会等関係者3名、計798名の方が閲覧くださいました。

この後、教科用図書選定資料作成委員会委員から、各種目についてご説明させていただきます。調査の観点、調査研究報告書、調査研究資料をご準備ください。説明では、まず草加市の児童の実態について説明後、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてご説明いたします。

その後、各発行者の特色・特徴等について、目録の発行者順にご説明いたします。説明の際には、各発行者の報告する特色や特徴がよく表れている学年を選びまして、教科書を見せながらご説明いたします。サポートには担当の指導主事が入ります。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、説明が終わりました。ここで第40号議案の進め方につきまして、委員の皆様にお諮りしたいと思います。まず、各種目の担当委員から選定資料について報告をいたします。

その後、その報告に対する質疑及び協議を行います。

その後、採択を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 それでは、「小学校 国語」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 国語>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、国語科について説明を申し上げます。初めに、草加市の児童の実態についてでございますが、資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫しながら話をする力を身に付けさせる必要があります。

また、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することや、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけながら読むことができるようにする必要があります。そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、言葉に

よる見方・考え方を働かせた学習、言語能力を育成するための言語活動の設定の2点を設定しました。

次に、各発行者の特色・特長などについてご説明申し上げます。各発行者の第5学年のものを例にとってご説明申し上げます。

東京書籍につきましては、初めに、73ページ下、「学習の流れ」をご覧ください。各単元が、「見通す」・「取り組む」・「振り返る」という三つのステップを通して、72ページ中段の「言葉の力」を獲得する構成になっています。「言葉の力」は、72ページ下段で示しているように、前の学年や次の学年の系統性を重視して配列されており、螺旋的・反復的に学習を積み重ねることができ、学びのつながりを実感しながら資質・能力を身に付けることができる構成となっております。「見通す」では、学習意欲や学習の見通しを重視し、単元のはじめに身に付ける「言葉の力」や、学びの進め方を見開き紙面で明示しております。次に86ページ、87ページをご覧ください。「取り組む」では、ノートや発言などの学習の具体例、思考を深めるヒントとなる「ポイント」が明示されております。また、53ページをご覧ください。単元の学習で使う用語とその解説を「学習で使う言葉」として明示しております。次に88ページをご覧ください。「振り返る」では、身に付いた力を確かめることができるよう、振り返りの視点や本単元で身に付けた「言葉の力」、他教科や日常生活にいかす視点、関連図書などが明示されております。

次に、教育出版につきましては、初めに13ページをご覧ください。見通しを持って主体的な学びができるよう、単元扉では、「学習のめあて」や学習の意欲を喚起する「いざないの言葉」、本文中のイラストが示されています。次に28ページ、29ページをご覧ください。主体的・対話的で深い学びの実現を支援するために、「見通しをもとう」では、28ページ下段にある、学習活動を支える思考ツールや図解、29ページ下段にある児童の反応例などが掲載されております。次に30ページをご覧ください。「言葉」では、読みを深めるための文法的な知識や考え方、「言葉をふやそう」では、語彙の増加と実生活での定着を図るために、教材内で扱われた言葉と関連のある言葉が提示されています。また、38ページ、39ページでは、社会問題を考える題材、62ページでは、伝えたい相手や目的を明確にした教材など、日常生活の基盤となる言葉の力を育むよう、他教科や実生活との関連を深めた題材や、学習の必要感や、目的意識を重視した教材が設定されています。次に、80ページ、81ページをご覧ください。読書の意欲を高めるために、夏季休業前の学習期に、図書紹介のコーナーが新設されています。

最後に、光村図書出版につきましては、初めに、9ページから13ページをご覧ください。学ぶ意義や学び方が理解できるよう、巻頭に「国語の学びを見わたそう」のページが設定されています。次に、246ページ、247ページをご覧ください。「見通しをもとう」では、学習者の問いから学びがスタートするために、「問いをもとう」や、言葉による見方・考え方を働かせながら学習ができるよう「言葉に着目しよう」、個別最適な学び、協働的な学びができるよう「進んで読み深めよう」「伝え方の例」が示されています。また、「ふりかえろう」では、評価に対応した3つの観点で振り返ることができるよう、「知る・読む・つなぐ」で学習を振り返ることができるよう設定されています。次に、248ページをご覧ください。身に付ける資質・能力を、6年間で系統的に学ぶことができるよう、各単元で身に付ける言葉の力が「たいせつ」や、生きて働く言葉の力を育むために、学んだことを他教科や日常生活で活用できる視点が、「いかそう」で示されています。次に、222ページ及び217ページをご覧ください。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学習が進めやすいよう、上段が学習活動、下段が学習のポイントに分かれています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久教育長職務代理者 今、観点についてご説明いただきましたが、草加市の子どもたちが学ぶに当たって、個人差に応じた指導という部分で、特に配慮されている点がありましたら、何点か挙げていただければと思います。

○説明員 はい。各教科書とも低学年の教材では、語句を捉えやすいよう、文節改行をしています。

また、東京書籍では、入門期では、従来よりも、促音・拗音の小書きの文字を小さくして判別しやすくしています。また、新出漢字は囲みをなくして、字形をより捉えやすくしています。

教育出版では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学びのステップを常に確認できるよう、学習の進め方の欄を設けています。

光村図書出版では、「読むこと」において、一人ひとりの児童の興味に沿って学びが進められるよう、選択課題を設けたり、考えるための視点を複数示したりしています。

○峰崎隆司委員 草加市の実態を踏まえた調査研究の観点の中で、言語能力を育成するための言語活動の設定ということで、先ほどご説明されました。各教科書の中の説明の中にも出てきたと思いますが、各教科書ではどのような工夫をされているのか、何か特徴的なことがあれば、教えていただければと思います。

○説明員 5年生を例に挙げますと、東京書籍では、「インターネットは冒険だ」という教材がありますが、文章の構成を確かめ要約をまとめて、筆者の考えに対する自分の意見を伝え合う、そのような活動があったり、教育出版では、「世界遺産白神山地からの提言」というところでは、根拠となる資料に基づいて考えを深め、自分の意見を書こうという単元、また、光村図書出版では、「言葉の意味が分かること」という単元の中で、文章の要旨を捉えて、言葉の意味について考えたことを伝える、とこのようなものが具体的に設定されています。

○川井かすみ委員 本、読書の方法について、何か紹介の違いはありますか。また、その本の借り方や読書について、授業の中ではどのように進めているのでしょうか。

○説明員 本の紹介の方法については、例えば東京書籍では、多様な本に親しみ、読書体験を豊かにするために、多様なジャンルの本や、著名人の読書体験エッセイを紹介したりしています。

また、教育出版では、短時間でできる読書活動を紹介し、夏休み前や夏休み明けに授業で扱えるようにしています。また、「広がる読書の世界」という図書紹介のコーナーが、夏休み前の学習時期に設定されています。光村図書出版につきましては、日常的に図書館を利用し、読書によって生活を豊かにする児童を育成するために、読書に関わる力を整備し、読書単元、「本は友達」を年間2ヶ所に位置付けています。また、長編文学やノンフィクションなど、多様なジャンルのものを、読書活動と併せて掲載しています。

また、本の借り方や読書についてということですが、こちらにつきましては、東京書籍では、図書館を使いこなすために様々な資料や情報の探し方を示しています。また、教育出版では、上巻には、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図る情報読書教材、下巻には、図書の紹介を中心とした交流活動を行う交流読書教材を設定しています。

光村図書出版につきましては、学校図書館や地域の図書館などの施設を利用し、読みたい本を見つける方法や、知りたいことを調べる方法を示しています。

○加藤由美委員 各教科書に二次元コードが載っていますが、二次元コードの数の違い、また、二次元コードはどの程度利用されるのでしょうか。

○説明員 二次元コードにつきましては、授業ごとに必要な場面や、効果的な場面で利用しているところがございます。

○宇田川久美子委員 低学年は、各者とも上下に分かれていると思うのですが、高学年になって一冊になっているものと、上下になっているものとありますが、一冊にまとめた事での利点とか、分かれていた方がいい点など、何か気が付いたことがあれば教えてください。



○説明員 中学校は一冊になっておりますので、その関連性を図るところ、また、一冊ということで、学びが見通せるという良さがあると考えております。また分冊につきましては、新しい教科書に出会う、そういう喜びを一年間に2回、味わえることができること、また、軽量化等の良さもあると考えております。

○山本好一郎教育長 私からもよろしいですか。国語科ですから、単元、見通しを持つということが非常に重要だと思っておりますが、ご説明の中に、それぞれ各者、見通すという工夫が、それぞれ見通しを持たせることに関して、何か特別な工夫や良さがある部分が毎回あります。それは各者同じでしょうか。

○説明員 主体的・対話的で深い学びというところで、やはり見通しというところは非常に重要だと捉えております。各発行者も、それぞれ主体性を持たせたり、対話が生まれたり、その学ぶ単元の学びから次が生まれるように、見通しが持てるような、そのような学習の流れが掲載されています。

例えば東京書籍ですと、「学習の流れ」という部分があったり、教育出版ですと、学習の手引き、また、光村図書出版ですと、「見通しを持とう」などが掲載され、より主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習の見通しというところで、各発行者工夫されていると取ることができます。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは続きまして、「小学校 国語 書写」の選定資料の報告に入らせていただきます。

#### <小学校 国語 書写>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、書写の教科書についてご説明申し上げます。初めに、草加市の児童の実態でございますが、書く姿勢や筆記用具の持ち方に留意して、正しい文字の形や筆順等に気を付けながら、丁寧で美しい文字を書けるように指導する必要があります。日常生活の中で意識して書く活動の際に、正確な文字や正しい書き方によって、適切に表現し、情報を伝えるようにする必要があります。そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、豊かな心の育成、国語の授業との関連の2点を設定しました。

次に、各発行者の特色・特長などについて、主に5年生の教科書を基にご説明申し上げます。

東京書籍につきましては、初めに1ページをご覧ください。書写の学びの全体像と、各単元や日常とのつながりが理解できるよう、巻頭に「書写の学び」のページが示されています。次

に、2ページ、3ページをご覧ください。身に付ける書写の力を確実に学ぶために、学習の流れを確認する「書写の学び方」が設定されています。次に、21ページをご覧ください。全ての児童にとって分かりやすく使えるよう、大きなサイズの教材文字となっております。次に、20ページをご覧ください。系統的に整理した小学校の学習事項それぞれのポイントを「書写のかぎ」として、端的で分かりやすく説明しています。教材文字は利き手に関わらず見やすいよう、書き込み欄の上に配置しています。また、対話的な学習を促すために、問いかけの言葉での設問が示されています。次に、24ページをご覧ください。他教科とのつながりを理解するために、関連する教科をリンクマークで示しています。

次に、教育出版につきましては、初めに2ページから4ページをご覧ください。主体的・対話的で深い学びが実現するために、1年間の学びを可視化できる「目次」や、1時間の見通しを持つ「学習の流れ」が示されています。次に、12ページ、13ページをご覧ください。右ページには、教材文字と単元名のみのもので、半紙に対する文字の位置がイメージしやすく、文字感覚を自然と育むことができるようになっています。左のページでは、学習の流れやポイントを確認できる構成となっております。次に、20ページ、21ページをご覧ください。「書いて伝える力」を育成するために、学んだことを各教科のノートやまとめに活用する教材や、42ページの、手紙などの日常にいかす教材が工夫されています。次に、1年生の4ページから7ページをご覧ください。学習の基礎となる学びの姿勢が定着・習慣化できるよう、作業療法士の視点から、姿勢づくりや効率の良い鉛筆の持ち方の合言葉が掲載されています。

最後に、光村図書出版につきましては、初めに、6ページ、7ページをご覧ください。教科書サイズを半紙と同じ比率に変更し、授業で活用しやすい仕様となっております。見通しを持って主体的に学ぶことができるよう、右ページにはねらい、学習の進め方やポイント、左ページには、教材文字が大きくすっきりと示されており、単元ごとに見開き1ページで掲載されています。次に、11ページをご覧ください。国語科と一体的に扱い、学習活動に必然性を持たせるため、「インタビューメモの書き方」など、全学年で国語教科書と連動した教材が設定されています。また、24ページ、25ページでは、学習内容を新聞にまとめる活動や、35ページでは、英語での書き方など、他教科や日常生活との関連を図った教材も設定されています。次に、裏表紙をご覧ください。全学年でSDGsを意識した教材を取り上げております。次に、4年生の21ページをご覧ください。SDGsの達成に向けた「SDGsブック」が新設されています。次に1年生と3年生の1ページをご覧ください。書写学習が始まる1年生

と毛筆学習が始まる3年生には、「書写スタートブック」が新設されております。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○加藤由美委員 草加市の実態を踏まえての観点で、国語の授業との関連とありますが、現在使われている教科書は、国語と書写で違っていますが、特に問題というか、違う事による問題があるようでしたら教えていただけたらと思います。

○説明員 指導事項は、学習指導要領に示されているものでありまして、教科書の発行者が違っていても、学習指導要領で求められている指導事項というのは身に付けることができると考えております。

○小澤尚久教育長職務代理者 今回の国語の授業との関連という事についてもう少しお聞きしたいのですが、特に、草加の子どもたちが学ぶに当たって、国語の授業の関連で効果的だという内容について、一つ二つでいいので教えてください。

○説明員 各発行者、国語との関連教材を設定し、書写で身に付けた力を、言語活動でいかすことにより、学習に必然性を持たせる、そのような工夫を各発行者ともしております。例で申しますと、5年生を例に挙げますと、例えば東京書籍では、「書いて味わおう 竹取物語、奥の細道」、また、教育出版では、「竹取物語を書く」、光村図書出版では、「インタビューメモの書き方」などが、具体的に挙げる可以考虑。

○峰崎隆司委員 教科書のサイズが若干違うところがあります。メリット等あれば教えてください。

○説明員 各発行者の教科書のサイズですが、まず東京書籍については、書き込み欄は充実したまま、教科書・端末を並べて学習しても無理のないB5の変形サイズとなっております。128%拡大すると、半紙原寸大になる特長があります。教育出版につきましては、学習用具が多い教科書の特性を踏まえて、机の場所をとりすぎないB5判サイズとなっております。光村図書出版につきましては先ほどお話したとおり、今回5ミリワイドとし、128%に拡大すると、半紙と同じ大きさになるように変更されております。

○川井かすみ委員 5年生と、あと一部、1年生と紹介していただきましたが、毛筆が始まる、筆の筆圧について、子どもたちに教えやすい、各者特長などがあれば教えてください。

○説明員 まず東京書籍については、筆圧を「とん」「すう」「ぐっ」など、擬音で表現している特長があります。また、教育出版につきましては、筆圧を1や2、3、また「とん」や「す

う」など数字及び擬音で表現しております。光村図書出版につきましては、筆圧を1、2、3、弱く、だんだん強くなど、数字や言葉で表現している、そのような特徴がございます。

○宇田川久美子委員 光村図書についてはSDGsの事をお話くださいましたが、書写にSDGsが出てくるメリットがあれば教えてください。

○説明員 書写につきましても、各教科と同じように、現代的な課題に対応するという事で、各発行者工夫されていると考えています。その一つとして、SDGsを取り扱っていると考えられることはできると思います。

例えば、東京書籍につきましては、誰一人取り残さないための、特別支援教育への配慮、色覚特性への配慮、左利きへの配慮など、そのような工夫をされています。教育出版につきましては、SDGsの17の目標に関わる言葉を書いたり、SDGsについて調べたことを書いてまとめたりする活動として、持続可能な社会の形成に関わる意識を涵養しております。光村図書出版につきましては先ほどお話したとおりですが、全学年にSDGsを意識した教材を取り上げているという事、3、4、5、6年生の裏表紙にはSDGs講座、また4年生につきましてはSDGsブックが設けられています。

○宇田川久美子委員 もう一ついいですか。教育出版の1年生を例にして、字を書く姿勢ということをお伝えいただきましたが、他の発行者も、書く姿勢ということでは捉えていると思いますが、こちらを紹介して下さったのはなぜですか。他も字を書く姿勢というところは、どの発行者も捉えていると思いますが、わざわざ1年生のここを紹介して下さった理由はなぜでしょうか。

○説明員 こちらにつきましては、まず各発行者とも、1年生のところに、例えば東京書籍については、書きやすい姿勢、筆圧や持ち方、教育出版につきましても、姿勢や持ち方、そういったものは取り扱っております。光村図書出版につきましても、書く時の姿勢や筆の扱い等は扱っているところです。

先ほど質問で、なぜ教育出版だけということでありましたが、教育出版の中で作業療法士の視点というところが取り上げられていたので紹介させていただきました。

○加藤由美委員 毛筆のところで、教育出版さんは右側で、東京書籍、光村図書出版は左で、実際これをお手本にするとと思いますが、その時の教科書は折り曲げてお手本にされるのか、どのように使うわれるのでしょうか。

○説明員 現場では、このような使い方をしなさいというのは、特に提示はされておませんが、各先生方の工夫の中で使われているのかと思います。それぞれの特徴としましては、右ペ

ージにポイントを示して、左に教材を置いているところは、ポイントを確認しながら、その後全体を見るというような形、また、右ページに教材を置いて、左ページにポイントを置いていることは、まずは文字の全体図を捉えながら、細かいポイント取れるという学習の流れにはなるかと考えております。

○山本好一郎教育長 私からも一点よろしいですか。それぞれの毛筆の学習のところに二次元コードが付いていますが、これは内容的にはどのようなものですか。各者大体同じですか。

○説明員 内容につきましては、動画であったり、資料であったり、写真などが掲載されています。特に、動きや姿勢ということに関しては非常に効果的ではないかと、各発行者とも使われているのではないかと思います。

○山本好一郎教育長 毛筆の学習の場合、特に実際の授業の中で、その二次元コードを利用する先生方は、また新たな視点で取り組んでいかなければならない、この活用については、どんなお考えですか。

○説明員 各先生方、工夫して使われているかと思います。教科書の使い方なので、各先生方の方法があるかもしれませんが、時間を上手に使いながら活用していくと、やはり今まで資料だけだったものが、動きとして現れるので、特に姿勢などが具体的に分かる、動きがすごく見やすくなるような特長はあるかと思うので、各先生方、今後さらに研究して使っていくことは非常に有効ではないかと思っております。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「小学校 社会」の選定資料の報告に入らせていただきます。

#### <小学校 社会>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、社会科についてご説明申し上げます。まず、草加市の児童の実態でございますが、単元を通して学習問題を意識しながら何を学び、何を身に付けるのかを明確にして学習に取り組む必要があります。調べた内容から、自分の考えを持つことや、自分の言葉で表現する力については課題があり、資料によって子どもの関心の高さに違いがあることも見受けられます。正しい情報を取捨選択するとともに資料を読み取り、それを活用する力の育成が必要であると言えます。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、社会科におきましては、資料の活用についてといたしました。

次に、各発行者の特色・特長などについてご説明申し上げます。教科書の方は、各発行者の6年生、単元といたしましては、主に「世界の中の日本」を例にとり、ご説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、使いやすさと児童の重量負担に配慮し、「政治・国際編」「歴史編」と分冊構成がとられています。「政治・国際編」の12ページの下の方をご覧ください。キャラクターのイラストの種類によって、社会的な見方・考え方が一目で分かるように工夫されています。また、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の問題解決的な学習の進め方が明記されています。具体的には、96ページをご覧ください。「つかむ」、98ページ「調べる」、104ページ「まとめる」、106ページ「いかす」と学習段階が色別に大きな字で分かりやすく示されています。同じく「政治・国際編」の3ページをご覧ください。社会科の学習のために大切な技能や方法を「まなび方コーナー」として、「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」の3つの観点に分けて具体的に示し、必要な技能を身に付けられるように工夫されています。次に、「歴史編」、22、23ページをご覧ください。「まとめる」では、「文章でまとめる」「討論する」「説明する」などの言語活動を軸にした多様な表現活動を提示し、知識の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成しています。ここでは「新聞をつくる」という活動が示されています。また、二次元コードが教科書の見開きの右下に、コンテンツ名とともに配置されており、活用しやすいように工夫されています。

次に、教育出版につきましては、年間を通して活用しやすいように学年一冊の構成となっています。初めに、6年生の教科書、2、3ページをご覧ください。ICT機器の多様な活用例を、学習内容に応じて写真やイラスト、動画などで紹介し、タブレットを使った学習がより効果的に行われるように工夫されています。次に、272、273ページをご覧ください。272ページの左側には、「この時間の問い」が、273ページの右下には、「次につなげよう」が提示されています。この学習の流れを重視することで各時間の「問い」がつながり、単元を通して一貫した追求ができるように工夫されています。次に220ページをご覧ください。この「青空教室」の写真のように、6年生の歴史学習のページには、AIの技術と史料などを基に、カラー化した画像を52点掲載し、当時の出来事をより身近に捉えられるように工夫されています。

最後に、日本文教出版でございます。日本文教出版につきましては、年間を通して活用しやすいように、学年一冊となっています。初めに、6年生の教科書の264、265ページをご覧ください。文章が正確に読み取れるように、本文を264ページの3行分の「学習活動」、

そして色つきの部分の「学習内容」、265ページの「友だちの発言」の3つに分ける工夫がされています。次に、270、271ページをご覧ください。「さらに考えたい問題」については、考えたことを話し合う協働的な学習の様子を漫画形式で例示しています。様々な視点からの考えを比較したり、関連付けたりすることで、多面的な思考や理解へと導く工夫がされています。次に、272、273ページをご覧ください。「未来につなげる～私たちのSDGs～」が掲載されています。また、巻末には「SDGsシール」が付録として付いており、SDGsの達成を自分ごととして考え、行動できるきっかけとなる教材を掲載しています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○峰崎隆司委員 草加市の実態を踏まえた調査観点で、先ほど資料の活用ということでお話がありました。資料の活用能力を高めるための工夫という点では各教科書、何か特徴的なものがあれば教えていただけますか。

○説明員 社会的な見方・考え方ですね、視点や方法についての問いの例を示し、児童の資料活用力を伸ばすよう、各者とも具体的に示されています。

例えば東京書籍は、ドラえもんのイラストの種類によって、ひと目で、社会的な見方・考え方が分かるようになっております。教育出版は、キャラクターが会話の中で、見方・考え方を言葉で伝えています。日本文教出版は、動物のキャラクターが三つの目の付け所についてアドバイスしています。

○加藤由美委員 5年生の教科書の日本文教出版、288ページでかなりページ数が多いのですが、何か理由が分かれば教えてください。

○説明員 5年生の236、237ページを開いてください。先ほど述べたように、「未来につながる私達のSDGs」ということで、SDGsの特設ページで多くページを割かれております。

○川井かすみ委員 教育出版の中で、220ページのご説明いただいたときに、AIで写真をカラーにと説明がありましたが、これ以外に例えばAIについての各者何か特長、ユニバーサルデザインについての各者特長があれば教えてください。

○説明員 ユニバーサルデザインについては、どの教科書もユニバーサルデザインフォント、また、カラーユニバーサルデザインというものを採用して見やすくなっております。AIについての特長ですが、5年生の情報の学習をする際に、それぞれ触れられています。

東京書籍は66ページに書いてありますが、人工知能が組み込まれ、介護の現場で活躍できるロボットが開発されています、と紹介されています。また、教育出版ですが、207ページで、情報通信技術の可能性について、人間の暮らしを今後さらに大きく変えていくことを、「誰もが暮らしやすい社会を目指して」と、「高齢化や人口の減少に備えて」という項目で紹介しています。また、日本文教出版は、同じく5年生の189ページの方で、Society 5.0では、インターネットで様々な知識や情報を共有します。その大量の情報を人工知能で分析することで、新たな価値が産業や社会にもたらされるとしています。

○宇田川久美子委員 教育出版の6年生の、先ほどの青空教室をカラーにという写真ですが、リアルには思えますが、白黒をあえてカラーに、子どもたちにとってのメリットはありますか。

○説明員 子どもたちはカラーに慣れていきますので、より身近に感じられるということだと思います。

○宇田川久美子委員 他にも、6年生でなくても同じようにこうしてカラーにしているところがありますか。

○説明員 基本的に6年生の歴史の史料でということです。

○宇田川久美子委員 セピアな感じだとイメージが湧くように思うのですが、子どもたちにとってはカラーの方がよりリアルに感じられるということですね。

○説明員 また、細かなところも見えるということだと思います。

○山本好一郎教育長 私からよろしいですか。本市の子どもたち、社会科に関しても、自分の考えを持つ、自分の言葉で表現する、そういったものを高めていきたいということで、今ご説明の中で、東京書籍の討論・説明という言語活動を軸にした部分を紹介しているという説明がありました。教育出版、日本文教出版については、何かその辺のが、工夫なり考えを持って発表し合う、その辺の良さはありますか。

○説明員 各者とも、対話的な場面を非常に多く設けておまして、そこで深めていくという場面を多く設定しております。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「小学校 社会 地図」の選定資料に入らせていただきます。

<小学校 社会 地図>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 地図について、ご説明申し上げます。まず、草加市の児童の実態でございますが、



単元を通して学習問題を意識しながら、何を学び、何を身に付けるのかを明確にして、学習に取り組む必要があります。調べた内容から自分の考えを持つことや、自分の言葉で表現する力については課題があり、資料によって子どもの関心の高さに違いがあることも見受けられます。正しい情報を取捨選択するとともに、資料を読み取り、それを活用する力の育成が必要であるといえます。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、地図におきましては、資料の活用能力を高めるための特長といたしました。

次に、各発行者の特色、特長などについてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍につきましては、3年生から6年生までの4年間の使用に耐えるよう、丈夫な糸かがりの製本を用いています。7ページをご覧ください。7ページから14ページにおいて、3年生にも無理なく地図の仕組みと約束事が分かるように、「地図のきまり」や「地図帳の使い方」を漫画仕立てにしてあります。キャラクターたちが地図を作るというストーリーを通して、地図の作られ方やきまりが自然と身に付くように工夫がなされています。次に、37、38ページをご覧ください。人物キャラクターが子どもの目線に寄り添いながら学習の手がかりを示し、地図帳を使った学びをサポートしてくれています。次に、6ページをご覧ください。「ホップ ステップ マップでジャンプ」を全体で70問設定しています。楽しく問いや作業に取り組みながら、地図への関心や、地図を読む力が高まるように工夫されています。

次に、帝国書院につきましては、糸かがりの製本を用いるとともに、背に特別な布を巻いて強化し、4年間の使用に耐える丈夫なつくりとなっています。初めに1ページをご覧ください。1ページから3ページ「地図で世界発見!」、4ページから6ページ「地図で日本発見」、「地図の約束」と、30ページまでを主に3年生向けの内容とすることで、初めて地図帳を手にした3年生が親しみやすく学べるように工夫がなされています。次に、93ページをご覧ください。「地図マスターへの道」を全100問設置しています。レベルで色分けをし、順を追ってスモールステップで学べるように工夫されています。また、同ページには「世界のSDGs」が、125、126ページには、SDGsの特設ページと持続可能な社会の実現に向けて、様々なSDGsに関連する資料が掲載されています。次に、128ページをご覧ください。インクルーシブ教育を意識し、手話による都道府県名の表し方を紹介したコーナー、「手話で表す都道府県」を設けています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 先ほどの、国語・社会のときもSDGsについていくつか教えていただいたのですが、地図にSDGsが記載されているメリットについて教えてください。

○説明員 まず、SDGsの基本として、世界には本当に様々な課題があり、このままでは豊かな世界を未来に残せないのではないかとされています。世界のどこにどのような課題があるか、その課題に対する取組として、何が行われているかSDGsを通して見ることができます。

○加藤由美委員 帝国書院は、ページ数が132ページあり、東京書籍の102ページと比べると少し差がありますが、どのような違いがあるのでしょうか。

○説明員 3年生の地図の初めの学習の際に、まず、地図の使い方や、約束のページが少し多いことと、特徴的なのは、帝国書院の29、30ページを見てください。地図の最初の学習に分かりやすいように、広く見渡す地図が載せられています。これは、同じ北海道を比べると77、78ページ、こちらと比べると分かると思いますが、3年生の最初の学習のときに情報量を少なくして見渡せる、広く見渡す地図が載せられていることが一つ要因です。

○峰崎隆司委員 巻末にある統計資料や索引は、結構利用することが多いと思いますが、二つの発行者の違いはありますか。

○説明員 多くの違いはないです。必要な情報が入っております。

○山本好一郎教育長 私からも一点、先ほど委員さんからあった質問と重なりますが、3年生の方で非常に容量をとって、帝国書院の広く見渡す、簡略化された細かくないものが数ページにわたってあり、このことは特色だと思いますが、3年生でこういったページが相当有効でそのことがすごく大きなポイントになると思います。実際指導者によってそれは考え方変わるのか、それが草加の子どもたちにとってこういうページがあった方が、より望ましいのか、それについてはいかがでしょうか。

○説明員 やはり情報量が多いと、地図ということに抵抗感が出てしまう事もあるかと思いますが、最初はそういう情報量を少なくしたもので親しんでいくということが、地図を好きになるようになるかと思っています。

○山本好一郎教育長 その地図を見て親しみを持ってくれるようになるといいですね。

○説明員 はい。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 算数」の選定資料の報告に入らせていただきます。

## <小学校 算数>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 算数科についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、令和4年度の埼玉県学力・学習状況調査の算数において、各学年、県平均正答率とほぼ同程度か、やや下回るという結果でした。結果の分析から、数学的に問題発見や問題解決する過程を重視し、数学的な見方・考え方を働かせ、各場面で言語活動の充実を図る必要があります。算数を学ぶ楽しさや意義、必要性を実感することができるようにする必要があると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえた調査研究の観点でございますが、数学的活動の充実でございます。次に、各発行者の特色・特長についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年及び第1学年のものを例にとってご説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、6年生の120ページをご覧ください。単元導入では、日常生活での関連を重視した場面設定が工夫されています。121ページでは、吹き出しにより児童の言葉で問題解決の手がかりを示し、**1**として、緑の枠囲みで問題文、はてなマークで本時の学習課題、①として考えるときの手がかり、最後に、緑の枠囲みで、学習課題に正対したまとめと、虫眼鏡マークを付けて、大切な見方・考え方が示され、1時間ごとの問題解決的な学習の流れが分かる構成となっております。また、二次元コードからデジタルコンテンツを活用した活動が設けられることにより、児童の興味・関心を高め、学習内容を理解しやすくするための工夫がされています。次に、1年生①を1ページ目から順番にご覧ください。身近な生活や遊びの中から、算数とのつながりを感じられるよう場面設定が工夫されています。A4判の大きさに中綴じにしたことで開きやすく、数ブロックの操作や書き込みなどがしやすいつくりとなっております。8ページ、9ページをご覧ください。各ページがワークシートとして活用できるようになっています。書き込みのマス目は、ノートのマス目と同程度の方眼が用いられ、また、二次元コードで数字の書き順が視覚的に確認できるなど、児童が効率よく学習活動に取り組めるように配慮されています。

次に、大日本図書につきましては、6年生の45ページをご覧ください。単元導入「新しい学習が始まるよ」では、児童自身の疑問や気付きから学習課題を導き、主体的に学習に取り組めるようになっています。46ページをご覧ください。**1**として問題文、△1として問題解決の手順、めあては、本時の学習課題をアンダーラインを付けて示しています。51ページをご覧ください。じっくり深く学び合おうとなっている問題では、ページの端に色の付いた帯で学習の流れを示し、52ページでは発見・考え方として赤枠囲みで学習課題に対する大切な事が

まとめられています。また、二次元コードからコンテンツを活用して、児童の考えの動画で、考え方や説明の仕方を知ることができるようになっていきます。次に、1年生1の教科書を1ページ目から順番にご覧ください。これまでの生活や遊びの中に、算数とのつながりがあることを気付かせる構成となっています。13ページをご覧ください。A4版サイズで中綴じにし、ワークシートとして使いやすいよう工夫されています。学習活動をイラストで提示したり、ページ右下の二次元コードにより動画コンテンツとリンクさせたりし、児童の興味・関心を高め、学習の理解を深めることがされています。

次に、学校図書につきましては、6年生の128ページをご覧ください。単元導入「はてなを発見」では、児童が対話的に新たな学習課題に気付くことができる工夫がされています。131ページをご覧ください。①としてオレンジの枠囲みで問題文、めあては、めあてマークで本時の学習課題、①として自力解決の手だてが示されています。AB版の幅の広い紙面をいかし、ページの右側には、考え方モンスターを用いて、数学的な見方・考え方が具体的に例示されています。132ページをご覧ください。赤い枠囲みで、学習課題に正対したまとめが示されています。また、ページの真ん中より上の右側にある、黄色い四角のマークが二次元コードとリンクしています。児童が主体的に学習に取り組み、対話的に学びを深められるような構成となっています。次に、1年生上巻を1ページ目からご覧ください。冒頭から3ヶ所に折り込みのページを設け、絵本のような場面絵を大きく広げて、児童の興味・関心を高める工夫がされています。25ページをご覧ください。数の構成を学習する場面では色分けされた箱図を用いて、児童が視覚的に捉え理解を深めるための工夫がされています。ページの隅にある二次元コードを活用してコンテンツを操作することにより、体験的に学習できるようになっています。

次に、教育出版につきましては、6年生の107ページをご覧ください。単元導入、「どんな学習がはじまるかな？」では、身近な生活場面から、児童が対話的に問題を発見できるようになっています。①として、緑の枠囲みで学習課題が提示されています。△1として、考える順序を示し、児童やキャラクターの吹き出しにより、数学的な見方・考え方を具体的に挙げています。282ページをご覧ください。巻末の学びのマップとリンクさせて、二次元コードも活用して、児童の学びを深めるための工夫がされています。111ページにお戻りください。

「だったら」のマークを付け、新たな考えを広がる手がかりを示しています。他にもはてなマーク、なるほどマークなど、児童が対話的に数学的な見方・考え方を伝え合い、活用して学び合えるような構成が工夫されています。次に、1年生の教科書を1ページ目から順番にご覧ください。1年生についても2年生以上と同様、B5判の合冊となっています。冒頭部分は、日

常生活の場面と算数の学習のつながりを、絵本のような挿絵で取り上げることにより、児童の興味・関心を高める構成となっています。12ページをご覧ください。直接書き込むことができるようになっています。児童の写真で学習場面を提示し、学習活動が行いやすくなるよう工夫されています。

次に、啓林館につきましては、6年生の88ページをご覧ください。単元導入では、既習事項を振り返り、そこから生まれる児童の新たな問いや、気づきを学習課題につなげる構成となっています。新たな単元に関連する既習事項については、二次元コードとリンクし、巻末の「じゅんぴ」のページの活用が図られています。89ページでは①として緑色の枠囲みで問題文、めあてのマークを付け、朱色の文字で学習課題、まとめとして、朱色のラインを上下に付けて示されています。92ページ、93ページをご覧ください。カタカナの、ア・イ・ウとして、考え方の手順が具体的に示されています。また、児童の吹き出しなどの大切な見方・考え方の部分には、オレンジ色のマーカーが引かれています。数学的活動の過程で、児童が数学的な見方・考え方を価値付けしやすくする工夫がされています。次に、1年生のA4版、中綴じの別冊①を1ページ目から順番にご覧ください。3ページまでは、日常生活を想起させる写真が多く用いられ、これまでの生活や遊びの中に算数とのつながりを見出せるようになっています。5ページから9ページまでの、わくわく学校では、絵本のようなイラストを余白を十分に取ったレイアウトで示し、児童が場面を捉えやすい構成となっています。12ページをご覧ください。ワークシートとして書き込みができるようになっています。二次元コードから動画を活用し、学習活動に取り組めるようになっています。

最後に日本文教出版につきましては、6年生の109ページをご覧ください。新しい単元学習に入る前に、学習に関連する既習事項について復習し、確認するための問題が設けられています。二次元コードから問題のヒントと答えが確かめられるようになっています。110ページをご覧ください。単元導入では、日常の事象や既習事項について考察しながら、児童の興味・関心を高め、学習課題を見出せるような問題となっています。111ページでは①として青い枠囲みで問題文、めあてのマークと朱色のアンダーラインで本時の学習課題、①、②として課題解決の手順、また、学習活動の中で働かせる数学的な見方・考え方を、オレンジ色に網掛けをして示しています。113ページではまとめとして、朱色の枠囲みで学習課題に正対したまとめがされ、1時間ごとの数学的活動のつながりを意識した構成となっています。次に1年生B5判中綴じ別冊の①を1ページ目からご覧ください。目次を巻末に掲載することにより、表紙を開くとすぐに絵本の物語を読み進められるようになっています。二次元コードから聞く活

動を取り入れることができ、これまでの生活と算数の世界とをつなげ、算数の楽しさや良さを味わえるよう工夫されています。23ページをご覧ください。折り込みのページが設けられ、大きな場面絵を見て考える活動や、裏面では、児童が直接書き込んで理解を深める活動ができるよう工夫されています。以上、限られた時間の中での説明となりますので、学年を絞って特色や特長を挙げさせていただきます。他の学年のものにつきましても、各発行者、学習指導要領を踏まえ、算数科における主体的・対話的で深い学びに重点を置いて、児童の発達段階に合わせて学びに向かう力や人間性を涵養することや、数学的活動を充実させることについて、それぞれがその内容に工夫を凝らしている点が見られました。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久教育長職務代理者 どの発行者も考えられていることだと思いますが、草加市の子どもたちが、算数を考える楽しさを味わえるような展開として、特に効果的であるということがあれば、いくつかでいいので具体的に教えてください。

○説明員 各発行者、単元導入などでその題材に関わる生活に即した内容と、振り返りのときに学習したことをいかして問題を解けるようになっていて、その中で知識や思考の広がり、楽しさを感じながら力を高めていけるような構成になっております。

例えば東京書籍では、4年生以上の上巻の巻頭で、「私と算数」として、世界レベルで活躍する人物が、算数の学習の価値や身近さを語るページを設けたり、単元導入ではオープニングムービーが活用できるようにするなど工夫されています。大日本図書では導入課題や、「算数玉手箱」「なるほど算数教室」など、新たな問題と出会うことで、児童が思わず考えたくなる教材の工夫がされています。また、学校図書では「考え方モンスターを見つけてみよう」という構成で、児童が楽しみながら活動することを通して、児童に身に付けさせたい数学的な見方・考え方が抵抗なく学べるよう工夫されています。また教育出版では、大切な見方・考え方について、単元末で「振り返ろう」の4コマ漫画で整理することにより、児童が楽しくまとめを行うことができるように工夫されています。啓林館では、準備のページでしっかりと既習事項を振り返ることにより、題材の知識や思考の広がりを児童が身に付けさせられるような構成となっています。また、学びのまとめなので、しっかりと大切なことが整理されています。日本文教出版につきましては、「さらに深めていこう」「なるほど、算数」などのコーナーで、児童の興味・関心を高めながら、楽しく学べるような工夫がされています。

○宇田川久美子委員 草加市の実態を踏まえた観点ですが、数学的活動をもう少し具体的に教

えていただいているのですか。

○説明員 数学的活動は、新学習指導要領の算数科の目標の冒頭の部分で、算数においては数学的活動を通して力を身に付けると伝えられている算数科の中心となる活動となります。大きくAからDまでの四つに分類されていて、Aでは問題を数学化する場面。つまり何のために問題を解くのか、子どもが問題を意識化する場面です。数学的活動のBは、数学を活用した問題解決に向けて構想見通しを立てる場面になります。数学的活動のCは、焦点化した問題の自力解決の場面、最後に数学活動のDは、それらを統合・発展する場面。子どもが学んだ解決過程を振り返ったり、得られた結果を意味付けたり、活用したり、学習の体験化を図っていく場面です。つまり、数学的活動というのは、1時間の授業の流れも、ありとあらゆるところにちりばめられていて、大切な力を育むための活動となっていきます。

○峰崎隆司委員 どの教科書も、巻末といますか、こういうところに付録のように切り取って使えるものが付いていると思いますが、何か特徴的なものはありますか。

○説明員 巻末につきましては、各者単元の中で活用できるものとリンクした使いやすい具体的で体験的な活動となるものが工夫されています。他と異なる大きな特徴というところではなく、各者工夫されているということです。

○峰崎隆司委員 どういうものが付いているかは、それぞれの発行者によって違うということですか。

○説明員 多少違います。

○加藤由美委員 啓林館の4年生の上、最後のところで透明の分度器が付いていますが、これを利用することで、わざわざ買う必要はないという事になるのでしょうか。

○説明員 4年生の学習場面で、子どもたちが一斉に学習する場面では、これを活用すれば大変有効に使えると思うのですが、分度器を使った学習場面が、この学年のこの場面だけではないので、耐久性や長期的な活用ということでは、ずっと将来的に購入しなくてもいいかというところと分かりませんが、この場面での活用が有効であるというような捉え方になるかと思われま

○川井かすみ委員 1年生の教科書において、各者1、2、3と書く順番、直接書く欄もありますが、そこに二次元コードが載っていて、実際に動画を見ながら書くのですか。そうすると、何か、タブレットに書いた方が早いと思ってしまうのですが、その辺りは授業の進め方として、書くというところに二次元コードがあるメリットはなんですか。

○説明員 ご指摘のとおり、子どもたちの机の上にタブレットもあり、教科書も見る活動があって、書く活動があってということだと、入学当初の子どもたちにはやはりステップが大きく、

沢山ありすぎて混乱をする子どももいるかと思います。デジタルコンテンツの活用としては、児童が個別に活用するというよりは、一斉指導の中で教師のタブレットを大きなモニターに映して、動画で書き順を確認した後、では、手元の教科書のスペースを使って練習しましょうというような展開が、無理のない展開になるのではないかと思います。

○山本好一郎教育長 自分の意見もあるのですが、先ほど川井委員からもありました二次元コード、特に算数ですので、見ますと各者、当然二次元コードが入っておりますが、中にはデジタルコンテンツ、何かってということが明示されているものがあります。また、動画なのか何かというと、その辺りの扱いに違いを感じた事と、あまりにも情報が多く、ものすごく増えていくので、今後この教科書というものと、この二次元コードやデジタルの取り扱いが今までにないような、先生方の授業づくりにおいて、かなり変わってくるのかと思います。分かる範囲で結構ですが、今改めて、このデジタルや二次元コードが沢山ある中で、これに触れなければ、通常のこの教科書の使った単元がうまくいかないということは基本的にない、あくまで補助的なものという扱いでよろしいですか。

○説明員 補助的な部分もありますし、それから練習問題などを取り上げているものについては、子どもたちの習熟度に合わせた練習問題が用意されているところなのは、子どもたちの個別最適な学びに、例えば授業だけではなく、家庭学習などでも活用できるような配慮になっていくのかと思います。

また、単元導入のところで、オリエンテーション動画や解説動画などが設定されているものについては、子どもたちの興味・関心を高め、補助というよりは動機付けの方で活用できるものもあるかと思います。各者大変工夫されたコンテンツが、1,000を超える数で用意されていますので、とても授業の中だけで活用していくことが、一斉授業の中では教える側にも工夫が必要になってくるかと思われませんが、学習場面を主体的に子どもたちが、いろいろな学習場面の中で活用していくことを考えると、どの発行者の準備されているこのコンテンツも有効になっていくのかと思われま。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、ここまでの報告を終えさせていただきます。

〈採択〉

○山本好一郎教育長 これより「国語」「書写」「社会」「地図」「算数」の教科用図書に係る採択に入ります。



採択についてございますが、採択は無記名投票により行います。これから委員の皆様には投票用紙を配付いたします。採択すべきと思う発行者の右の四角に1者だけ、○をお付けください。記載はボールペンでお願いいたします。なお、複数の発行者に○を付れたり、○以外の印は無効となりますのでご注意をいただきたいと思ひます。書き損じをされた場合には、はっきりと分かるように二重線で消していただき、新たに○をお付けください。

投票は小澤職務代理から順に、時計回りで、記入した全ての投票用紙を半分に折った上で、お入れいただきたいと思ひます。以上となりますが、何かご質問はございますか。

それでは今から配布いたしますので、ご記入をお願いいたします。

記入の方はお済みでございますか。

それでは次に、投票箱に何も入っていないことを確認したいと思ひます。

(「空でございます」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 投票箱に何も入っていないことが確認されました。皆様よろしいでしょうか。それでは、小澤職務代理からの時計回りの順で、投票箱に投票をお願いします。

( 投 票 )

○山本好一郎教育長 それでは、開票につきまして小澤職務代理の立ち会いのもと、事務局で確認をいたします。

( 開 票 )

○山本好一郎教育長 それでは、集計結果を発表いたします。

まず、「国語」でございますが、光村図書出版株式会社6票ですので、光村図書出版株式会社といたします。

次に、「書写」でございますが、教育出版株式会社3票、光村図書出版株式会社3票、となっておりますので、この場合、教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、教育長による決定となります。私は光村図書出版株式会社を選ばせていただきましたので、光村図書出版株式会社といたします。

続きまして「社会」、東京書籍株式会社5票、日本文教出版株式会社1票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

続きまして、「地図」、株式会社帝国書院6票でございますので、株式会社帝国書院といた

します。

続きまして、「算数」、東京書籍株式会社6票、従いまして東京書籍株式会社といたします。  
以上でございます。

---

○山本好一郎教育長 それではここで、11時35分から60分休憩を取りたいと思います。  
12時35分まで休憩といたします。よろしくお願いいたします。

————— 休憩 —————

---

#### ◎再開の宣言

○山本好一郎教育長 休憩前に引き続き、臨時会を再開いたします。

---

○山本好一郎教育長 それでは「小学校 理科」の選定資料の報告に入らせていただきます。

#### <小学校 理科>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 理科の教科書について、ご説明申し上げます。まず、草加市の児童の実態でございますが、観察や実験には意欲的に取り組みますが、目的意識や必要感を持って取り組むこと、根拠のある予想を立てたり、解決方法を発想したりするなどの問題解決の進め方に課題が見られます。そのため、日常生活と関連付けたり、結果と自らの予想とを比較検討したりすることで、目的意識・必要感を持ち、児童一人ひとりが主体的・対話的に観察・実験に取り組むようにすることが必要であると考えております。そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、児童が問題解決の過程を意識し、目的意識や必要感を持って観察・実験に取り組めるよう、問題解決の力、探求の学習過程を意識した学習を観点として取り上げました。

それでは、各発行者の特色・特長等について、先ほど挙げました本市の課題を基にした観点を含めてご説明申し上げます。なお、具体的な例は各者、第6学年の冊子で説明いたします。

初めに、東京書籍の特長につきましては、観察・実験は見開き1ページに収められており、観察については記録例が掲載されていること、問題解決の過程が大きく表記されていること、身近なものを例として取り上げ、自然や社会とのつながりが感じられる資料が多く掲載されていることが挙げられます。まず、観察・実験が見開き1ページに収められており、観察につい

ては記録例が掲載されていることについてですが、80、81ページをご覧ください。左のページに問題が、右のページに観察、または実験が示されており、見開きで学習を進めることができます。また、81ページ中ほどのように、観察記録の例が掲載されていることで、必要な記録事項が分かりやすく示されております。次に、問題解決の過程が大きく表記されていることについてですが、79ページをご覧ください。79ページから82ページにかけて、ページの左端に「問題をつかもう」「問題」「予想しよう」のように矢印でつながれており、問題解決の過程が大きく分かりやすく示されております。最後に、身近なものを例とした自然や社会とのつながりが感じられる資料についてですが、75ページをご覧ください。「理科の世界探検部」のように、随所に読み物資料が載っております。児童が興味を持てるような身近な内容やこのページのように、料理人へのインタビューといった将来の夢につながる内容など、キャリア教育も意識した内容の読み物資料も掲載されております。

次に、大日本図書の特長につきましては、問題の文章は、「何々は何々なのだろうか」という表現に統一されていること、学びの流れが分かりやすく表記されていること、学習したことを日常生活に当てはめて考えられるような資料が多く掲載されていることが挙げられます。まず、問題の表現が統一されていることについてですが、65ページをご覧ください。ここでの問題は、「水は、葉のどこから水蒸気として出ていくのだろうか」となっておりますが、この他の箇所においても、このような表現で統一されており、内容が明確で児童が問題を把握しやすくなっております。次に、学びの流れが分かりやすく表記されていることについてですが、64ページをご覧ください。64ページから66ページにかけて、「問題を見つける」「問題」「予想」のように、学習の過程に合わせて色を変え、それを繋いで示しております。このように、問題解決の過程が分かりやすく表記されており、児童が学習の流れを意識して授業に臨むことができるようになっております。最後に、学習したことを日常生活に当てはめて考えられるような資料が多く掲載されていることについてですが、67ページをご覧ください。このページの「サイエンスワールド」のように、学習した内容が日常でどのように活用されているかを分かりやすくまとめた読み物資料が各所に掲載されており、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようになっております。

次に、学校図書の特長につきましては、単元ごとに育成すべき資質・能力が示されていること、問題解決の過程の流れが矢印でつないで示されていること、単元の導入部分で使用されている写真や図が、日常生活を想起させるものになっていることが挙げられます。まず、単元ごとに育成すべき資質・能力が示されていることについてですが11ページをご覧ください。下

部にある、「問題を見つける」「予想を図で表す」のように、単元の最初のページに、この単元で育成すべき資質・能力が明記されており、単元を通して身に付ける力を意識しながら、児童が見通しを持って学習に臨むことができるようになっております。次に、問題解決の過程の流れが矢印でつないで示されていることについてですが、12ページをご覧ください。12ページから14ページにかけて、「問題を見つけよう」「問題」「実験」のように、問題解決の流れをページの左端に矢印でつないで示すことで、児童が問題解決の過程を意識しながら学習に臨むことができるようになっております。最後に、単元の導入部分で使用されている写真や図が日常生活を想起できるものになっていることについてですが、10ページをご覧ください。ここではキャンプの様子の写真を用いておりますが、この単元を学習した後にもう一度立ち戻り、木の組み方などを考えさせることができるようにもなっております。学んだことを生活と結び付けて考えさせる資料としても活用できます。

次に、教育出版の特長につきましては、単元の最初にノートの記事例や、結果記録の例が示されていること、学年ごとに身に付けるべき問題解決の力や、問題解決の過程の流れが分かりやすく示されていること、読み物資料が豊富に配置されていることが挙げられます。まず、単元の最初に、ノートの記事例や結果記録の例が示されていることについてですが、10ページをご覧ください。中ほどの右端にあるように、児童のノートと同じような図で記事例が示されており、児童が適切な記録の仕方を身に付ける助けとなっております。次に、学年ごとに身に付けるべき問題解決の力や問題解決の過程の流れが分かりやすく示されていることについてですが、9ページをご覧ください。9ページから12ページにかけて、「見つけよう」「問題」「予想しよう」のように、問題解決の流れをページの左端に矢印でつないで示すことで、児童が確認しながら学習を進めることができ、見通しを持って学習に取り組むことができるようになっております。最後に、豊富な読み物資料が掲載されていることについてですが、183ページをご覧ください。ここには「科学のまど」が掲載されておりますが、このほか、「資料」や「チャレンジ」などの読み物資料が豊富に掲載されており、日常生活における事象を学習内容をもとに考えさせるなど、学習したことと関連を図りながら活用することができ、実生活との関連を児童に意識させることができるようになっております。

最後に、新興出版社啓林館の特長につきましては、学年ごとの身に付けるべき問題解決の力について記載されていること、学習の過程が分かりやすく示されていること、ICTを活用できる場面にICTマークが掲載されていることが挙げられます。まず、学年ごとの身に付けるべき問題解決の力について記載されていることについてですが、5ページをご覧ください。中

ほどに、「6年はココが大切」とありますように、各学年とも教科書の最初にその学年で身に付けるべき問題解決の力が示されており、児童が意識して学習に取り組むことができるようになっております。次に、学習の過程が分かりやすく示されていることについてですが、178ページをご覧ください。178ページから180ページにかけて、「問題をつかもう」「問題」「予想と計画」「実験」「結果」「まとめ」のように、問題解決の過程に沿って大きく項目を示した上で、点線で結んであるため、児童が学習の流れを意識しながら、見通しを持って観察・実験に取り組むことができるようになっております。最後に、ICTを活用できる場面にICTマークが掲載されていることについてですが、179ページをご覧ください。このように、二次元コードとは別に、ICTを活用できる場面にはICTマークが掲載されており、児童が観察・実験におけるICT活用場面の参考にできるようになっております。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長　ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○峰崎隆司委員　草加市の児童の実態の中で、実験や観察の活動は意欲的ですが、なかなかそれに伴っての見方・考え方が培われていないという話だったと思います。各教科書でその点、どんな工夫があるのか、何か代表的な例があれば教えていただけますでしょうか。

○説明員　見方・考え方を培うという観点で、各教科書会社の工夫をご説明いたします。

まず東京書籍につきましては、20ページの下部に、水色の四角で、見方考え方のヒントを提案しております。このように、この教科書につきましては、このパンダのマークが付いて、水色のところで、見方・考え方を働かせるようなヒントを載せております。

大日本図書につきましては、12ページの上部に、「ここに注目」というマークで見方・考え方のポイントが示されております。他の箇所につきましても、このような形で示されております。

学校図書につきましては、11ページ右下にあるように、単元の最初に、この単元で働かせる見方を示し、ここでいうとカンガルーのマークが付いたところがそれに当たりますが、29ページ単元の最後、同じように右下のところに、見方を働かせた場面について振り返るようなコーナーを設けております。

また、教育出版につきましては、8ページをお開きください。8ページの下部に、「考え方のかぎ」というコーナーがございます。あわせて9ページの下部には、「見方のかぎ」ということであります。このような形で、吹き出しにマークをつけて働かせる場面を示しております。

啓林館につきましては、15ページの上の方に会話をしているような場面が載っているかと思うのですが、イラストの中で見方・考え方を働かせるような場面では、緑色マーカーを付けて示しております。同じように他の箇所についても、このような形で示しております。

子どもたちにとっても教員にとっても、ポイントが分かるような形で各者とも工夫されて、このような形で示しているような特徴がございます。

○宇田川久美子委員 この理科でこそ、二次元コードが活用できるのかと思いますが、実験の過程や研究の過程みたいなもので、何か各者特徴的に活用しているようなことがあれば教えてください。

○説明員 では、二次元コードについてご説明させていただきます。発行者ごとに説明したいと思います。

まず東京書籍につきましては、ほぼ全ての観察実験のところに二次元コードを利用した動画が用意されております。大日本図書につきましては、全てではないのですが、二次元コード利用した動画がかなり多く用意されているような印象がございます。学校図書につきましては、大日本図書と同じように、全ての観察実験に動画が用意されて二次元コードがあるわけではないのですが、かなり多くの動画等が用意されているような形になっております。教育出版につきましては、観察実験のやり方のところについては動画が用意されて、二次元コードがあるわけではないのですが、巻末にある実験器具の使い方については二次元コードがあって動画を見ることができるようになっております。啓林館につきましては、同じように観察実験には二次元コードが用意されて動画があるわけではないのですが、実験器具の紹介がされているページには二次元コードがあって動画を見ることができるようになっております。

この観察実験の動画については、おそらく発行者の考えの違いによって、実験の場面の動画がある発行者と、ない発行者があるのかと考えております。

○加藤由美委員 理科になると、実験があり、火を使ったり薬品を使ったりすることが多くなると思いますが、注意点など、各者何か特長はありますか。

○説明員 一者ごとにではないのですが、危険な場所、危険な実験等については、特別に危険というマークが付いて、子どもたち、もしくは教員の方に注意を促すような場面があったり、それに対する危険を細かく説明してあったりなど、どの会社につきましても危険が伴うような実験や器具の使い方のことに関しては、危険マークを付けるなどして注意を促すような工夫がされております。

○川井かすみ委員 そうするとその二次元コード、動画なども全く見なくても問題はないので

しょうか。それともやはり何かしら見ないと授業に何か影響があるのでしょうか。

○説明員 現在使用している教科書から二次元コードが付いて、動画等も用意されていますが、それまでに関しては、そういった動画等がない状況で授業を行ってまいりました。ただ、動画等があることによって、教員にとっても子どもにとっても分かりやすくなるということがございますので、なくても授業はもちろんです、あることによって、説明時間の短縮や子どもたちも実際に見て学ぶこともできるというところがあるので、メリットはあるかと考えております。

○小澤尚久教育長職務代理 SDG s についての取り上げ方で、草加市の子どもたちにとって特に効果的だと思う事をいくつか教えてください。

○説明員 SDG s につきましては、各者やはり力を入れているところがあるのと考えております。

東京書籍から説明させていただきます。67ページ右上にあるように、SDG s に関する内容に関しては、その関連する番号がついたSDG s マークが記されております。

大日本図書につきましては、19ページ右上にあるように、関係ある資料にこのマークが付けられております。SDG s のマークが付いております。

学校図書につきましては、151ページの右上にあるように、こちらもSDG s に関する資料にマークが付けられております。また、この学校図書については、裏表紙に単元に関連するSDG s マークも整理されているような形になっております。

教育出版につきましては、21ページをお開きください。中ほどにマークがあるかと思うのですが、SDG s に関する資料にこのような形で番号付きのマークが付されております。また、222ページをお開きください。こちらにはSDG s との関わりとして、教科書の中で関連するページが整理されております。

啓林館につきましては、86ページをお開きください。こちらも上部にマークがあるかと思うのですが、関係ある資料にこの番号付のマークが付されているような形になっております。

各者ともこのような形で、SDG s に関する内容についてはマークを付けて分かりやすく整理されております。

○加藤由美委員 出版社によって始まる単元が異なったりしていますが、草加市として、どの単元から入る事が有効だというのはありますか。

○説明員 特にこの単元から入らなくてはいけないということはないのですが、やはり季節と合っている、既習事項と流れとしてつながりが持てる、そういった形で大きな全体の単元の配

列を考えて工夫されて、各者ともされておりますので、特に始まる単元が教科書会社によって違ったとしても、草加市としての不都合というところは、特にはないかと考えております。

○宇田川久美子委員 大判のサイズから三つのサイズに分かれています、現場で使う時に、このサイズというのは何かそれぞれのいいところなどがあれば教えてください。

○説明員 まず大きいものに関しては、その分資料・写真や図が、大きく示すことができると思いますので、その辺りの資料として使う、もしくはその教科書に載っている写真を使って学習するというのであれば、大きい方がやはり見やすくなるのかなと考えております。

小さいものに関しては、子どもたちのその持ち運びであるとか、そういったところのメリットなのかと思います。ただ中身に関しては、どの会社も当然、検定を経ておりますし、学習指導要領の内容についてはしっかり網羅されておりますので、大きさによって学習に不都合が出るということはありませんので、特にそのあたりは、子どもたちへの影響は大きくはないかと考えております。

○山本好一郎教育長 私から一点よろしいですか。草加の子どもたちは、理科ですから、探究学習過程、これが非常に重要だをご説明もありました。私も見ましたが、非常に意識して、各者作られています。ただ、そのニュアンスとして最後の部分がまとめであったり、結論という形であったり、結果で終わるなど様々ですが、その違いということが、実は探求の大きな要素で、調査研究の中で、何かそういう違いで、特徴的なものがあれば教えてください。

○説明員 おそらく結果で終わってしまっているものに関しては、その単元の中で、全体で最後に結論を出すといった形の途中段階であるかと思うので、探求の流れとしては、結果があって考察があって、結論という形になるかと思います。結果で終わっているものは、おそらくその単元の全体の中での流れを踏まえて、そこで終わっているものかと考えます。結論やまとめに関しては、文言は少し異なりますが、学習の問題解決の流れとしては、最後にまとめをして終わっているところで考えておりますので、文言が違ったとしても、問題解決の流れの過程としては、最後にまとめ、結論で終わるというところで、各者で違いはありますが、大きな学習の流れの中では、違いはでないのかと考えております。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「小学校 生活」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 生活>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。



○説明員 それでは生活科の教科書についてご説明申し上げます。草加市の低学年児童の実態でございますが、身近な人々、社会、自然と直接触れ合い、体験を重視し、より良い生活に向けて、思いや願いを実現するために対象への興味関心や活動の意欲、気付きの質を高める必要があります。ここ数年、GIGAスクール構想の進展に伴いまして、児童はメディアを通して豊かな知識を獲得することができるようになってきています。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、学校と地域との関係や幼保小の交流において、児童が積極的に社会参画する機会など、社会性を発揮する機会が失われてきました。このことで、児童にとって実感を伴う理解が不足しており、これからはより良い生活に向けて、人や社会、自然と触れ合う学習活動を通して自尊感情を育んでいく必要があります。加えて、スタートカリキュラムの充実も大切となります。

草加市の低学年児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、幼保小連携の視点と気付きの質の高まりの工夫としています。

現在、文部科学省から幼保小の架け橋プログラムの実施が示されております。そこには、年長と小学校1年生の2年間を一つのまとまりとして、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が示されており、その核となるのが生活科です。このことから、生活科を核として、幼児教育の成果を、教科等の学びにつなぐということを観点としております。次に各発行者の特色・特長等についてご説明申し上げます。

まず、東京書籍です。こちらは現在使用している教科書会社でございます。上巻1ページから順に13ページ、「がっこうせいかつ すたあと」をご覧ください。入学当初の幼児教育の成果を小学校の生活や学習にいかせる具体的な場面を示しております。また、上巻12ページ左下の方をご覧ください。スタートカリキュラムの実施に対して、保護者への理解を促す工夫がなされています。上巻41ページ右上、「やくそく」をご覧ください。生活上必要な安全に関する知識や技能が、「かつどうべんりてちょう」「ちゅうい」のマークで示されております。下巻15ページをご覧ください。「話をつなごう」では、中学年以降の接続を意識し、他教科で学んだことを生活科にいかすヒントが示されております。下巻50ページをご覧ください。自然や物の性質を利用していることが分かるイラストや言葉があり、中学年以降の科学的な見方・考え方につながる姿が例示されております。

続きまして、大日本図書です。上巻4ページをご覧ください。小学校生活の一日を見通したページとなっています。ここを含めて2ページから7ページに、小学校と園との生活の共通点が示されています。上巻47ページ右下をご覧ください。「気持ちマーク」は、児童の意欲を可視化する工夫がなされております。また、児童の育ちを意識し、文字を書くという負担を軽

減しているところにもつながっております。上巻83ページをご覧ください。児童の感性を刺激し創造性を発揮させるために、白黒写真を配置する工夫が見られます。この後、二次元コードでアクセスし、実際の色を見ることで学習の効果が高まると考えられます。下巻27ページ下、「せいかつことば」をご覧ください。このように語彙を豊かにする工夫が示されております。この他、「きらきらことば」など、随所に言語活動を充実させるコーナーが設けられております。下巻114ページ、「がくしゅうどうぐばこ」をご覧ください。児童が学習に即して必要な知識や技能を習得したり、これまでの学習を確認したりできるよう工夫がなされております。

続きまして、学校図書です。上巻1ページをご覧ください。ここに示されている4人のキャラクターの生活科の学習を通して成長する様子が、子どもたちの等身大で描かれており児童の学び方のモデルとなっています。上巻28、29ページをご覧ください。キャラクターの言葉にあるように、分析的に捉える姿や観察の視点など、生活に必要な思考や見方・考え方の参考となるものとなっています。上巻125ページ、「生活 学び方図かん」をご覧ください。学習上必要な知識・技能、表現の仕方や考え方などがここにまとめられております。下巻25ページ、「やくそく」をご覧ください。活動ごとに生活や活動する上で必要な知識・技能が示されているだけでなく、モラルについての気付きが高まる工夫がなされております。下巻の目次をご覧ください。単元と学習する時期が月ごとに示されており、児童・教師・保護者、3者にとって、学習の見通しや進度の調整、進度の理解につながるということが期待できます。こちらの方は上巻も同様です。

続きまして、教育出版です。上巻13ページをご覧ください。児童になじみの深いキャラクターがナビゲーター役となって登場します。ここでは活動を通して、安全に関する知識を考えることを促しています。この他、思考を促す工夫や次の学習につながるきっかけとなる促しが随所にあります。上巻14ページをご覧ください。左上、「さいころ」のところでは生活科で学ぶ6つの力が示され、活動のねらいが分かりやすくなるよう工夫されております。上巻25ページ、「わくわくスイッチ」をご覧ください。児童一人ひとりの経験の違い、思いや感じていることなどに応じて、生活科の学習に期待感が持てる工夫がなされていることが特徴的です。下巻43ページ右上、「理科へのまど」をご覧ください。中学年以降の教科との関連も示されており、学びのつながりを意識した構成となっております。下巻109ページ、「学びのポケット」をご覧ください。学習を進める上で必要な知識・技能に加え、他教科との関連が整理されております。上巻には、合科的な指導、関連的な指導が示されております。

続きまして、光村図書出版です。上巻見開き6ページから8ページをご覧ください。絵本のような感覚で、児童の思考を促す工夫があります。また、文字が最小限に抑えられており、国語科における学習進度を考慮したものとなっております。上巻46ページをご覧ください。「そうすればもっとうまくできるだろう」にあるように、思考や学びを深める手がかりが随所に示されており、学習活動の助けとなります。上巻108ページ、109ページ下をご覧ください。自分との関わり、人との関わり、物との関わりを示す場面で、児童の表情がクローズアップされた写真が配置されており、各単元の活動をイメージしやすい配慮がなされております。下巻31ページをご覧ください。「こんなこともあるかもね」では、児童が思い描きやすい疑問、願いなどが描かれており、次の学びを示唆するものとなっております。下段では、振り返りの視点が3つの柱で整理されており、まとめる際のヒントとなっております。上下巻の巻末には、「ひろがるせいかつじてん」があります。生活に役立つ知識や技能、生き物図鑑が入っております。こちらは取り外しもでき、校外学習の際に持ち出したりするなど、活用の幅が広がるということが期待されます。

最後に新興出版啓林館でございます。上巻、「がっこうだいすきいちねんせい」1ページをご覧ください。ここから16ページまでが、生活科の学習の入口として、幼保小との円滑な接続に関する内容が児童の姿とともに配置されており、幼児教育の成果を小学校のどの場面でもいかすかの手がかりになっております。上巻4ページの「わくわく」、それから6ページの「いきいき」、12ページの「ぐんぐん」の3つの段階で1つの単元が構成され、探究的な学びが身に付くよう工夫されております。振り返りの視点も3つの柱で整理されており、評価の手がかりとしても活用できるものとなっております。上巻80ページから83ページをご覧ください。「びっくりずかんL I V E」には見応えのある色鮮やかな資料が多く、興味・関心の高まりにつながるよう工夫がなされております。下巻51ページ上の方、「学びのヒント」をご覧ください。困ったときや行き詰まったときに、見る・聞くなどの五感や育てる・探す・遊ぶなどの活動を通して、手がかりを得るヒントが入っております。また、教科書の縦の長さが26cmと短いところも特徴的です。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久教育長職務代理 幼保小の連携の視点から、学習が進んでいったところでも何かそういうコーナー、場面があったら、いくつか教えていただければと思います。

○説明員 最初ほどの発行者も、幼保小の連携の中で幼児教育という場面が絵やイラストの中

で描かれています。最終的には2年生の終わりには中学年以降の教科に結び付くということで、先ほど説明の中でもありましたように、理科の科学的な見方・考え方を働かせたり、国語の言葉の学習であったりなど、そういった教科に結び付くように、徐々に緩やかに、どの発行者も活動を通しての学びから教科を通しての学びにつながっているのです、ここで区切りがあるというところを、お示しをすることが非常に難しいものだと思います。

○小澤尚久教育長職務代理 何か振り返ったり、思い出したり、立ち戻って考えたりなど、そういったところはありませんか。

○説明員 生活科の活動自体が、学習を通して生活科の見方・考え方、つまり生活科で学んできたことを、他の教科で学んできたことの知識とか技能っていうのを働かせようというところがあるので、先ほど申し上げたようなヒントが所々に書かれています。

具体的に、一番直近で説明をした啓林館は下巻の51ページ「学びのヒント」をご覧ください。そちらの方にあるように、これまでやってきたことを手がかり、ヒントとして示していただきます。

また、学校図書をご覧ください。この4人のキャラクター、これが等身大で描かれていますので、子どもたちがつまづきやすい、あるいは行き詰まりやすい場面のところでどのようにして考えているかとヒントが示されております。

発行者それぞれの描き方は少し違いますが、それぞれ立ち返ったり、今までの学習経験を振り返っていかしていくといいというような手がかりになるようなものは、随所に見られます。

○宇田川久美子委員 説明の中に、二次元コードの事ですが、白黒の写真が二次元コードでアクセスするとカラーで見られるとありました。多分低学年の児童は、動いたり色が変わったりすると興味を持って見てもらえるのかと思います。それぞれの発行者で何か二次元コードをうまく利用して興味を持ってもらえるみたいに、工夫があれば教えてください。

○説明員 各発行者も二次元コードの中でコンテンツの数は、例えば東京書籍ですと691のコンテンツがあったり、学校図書ですと、コンテンツ133など、数はそれぞれ違うのですが、やはり子どもたちを見ておきますと、図鑑で調べたり動画を視聴したり、特にこの動画の部分で、例えば花の開花の様子など、瞬間として捉えにくいようなものが、そのこの単元の中で二次元コードを読み取れると、それが再生されます。この辺りは非常に好評ですし、教員側も活用することによって先ほど理科でもありましたが、言葉で説明しているものが、子どもたちみんながイメージできるという、そういったような効果は非常に高いかと思います。

○峰崎隆司委員 先ほどの説明の中で、東京書籍のときだと思いますが、他教科との関連の話

がありました。これはすごく特徴的だったと思いますが、他の教科書でも同じようなものが、どこかこれとはいうのはありますか。

○説明員 例えば学校図書ですと、下巻の100ページをご覧ください。2年生を振り返ろうということで、できるようになったよ、頑張ったよというところで、例えば「できるようになったこと」として算数をやったりとか、こういった2年生の下巻の後半部分になってくると、他教科との関連が随所に示されてきています。

○峰崎隆司委員 そうすると東京書籍が最初のところで示しているのは、特長的な部分ですか。

○説明員 東京書籍に限らず、先ほどの説明の中で、生活科の役割として、幼小接続という役割があります。それからもう一つは、中学年以降の教科との接続、接続という言葉は使っていないのですが、教科への円滑な接続というところの役割を果たす教科の性質上、各発行者ともにそのような構成になっています。

○山本好一郎教育長 私からひとつ、よろしいでしょうか。特に入学して間もない段階の単元で、学校を探検したり、夏になると花を見たりする中で、発行者の中にタブレットを使った、その図や写真が出ている部分で、その時期が学校探検の段階で出ているところと、夏ぐらいになって出てくるところと、微妙な違いですが、入学初期段階で、タブレットの写真を撮って、そういったものを見せ合うことを、今は進めていくような感じですか。それとも初期段階、特に4月、5月、その段階でタブレットの部分が入ってくると無理があるのか、いかがでしょうか。

○説明員 やはりタブレットの中に、上巻の4月、5月、いわゆる入学当初に示されているものは、ある程度完成されてきたものです。やはり幼児教育で培ってきた感覚的な理解を、その学習上でいかすためには、タブレットは徐々に使い慣れもありますし、先ほど言ったように、観察して、その瞬時を捉えられないようなものについては非常に効果がありますが、学習の全てをタブレットで使うというような、4月当初、5月辺りまでは、やはり自分で見たもの、聞いたもの、感じたものなど、自分で通学の探検や学校探検で人と話したことなど、そういった五感を活用して、より良い生活を考えていくということを重視しているものなので、タブレットは、補足的なものというか、付属的なものというような扱いにはなっています。

○川井かすみ委員 例えば東京書籍の66ページ、あとは教育出版の36ページに、まちの安全や工夫ということで、いろいろなマークの紹介、写真が記載されていますが、生活に限らず、インクルーシブ教育、共生社会が進んでいって、教科書内のイラストでも、車椅子のお子さんの絵だったりとか、あと肌の色の違うお子さんの記載があったりします。初めて学校に入学し

て、車椅子を知らないお子さんがこの教科書を見て、「何でこの子、車椅子に乗っているの」「なんで教科書に載っているの」ってなった場合には、このマークを教える前に教えないといけないのかと思うのですが、そういった場合はどのような説明をされるのでしょうか。

例えば教育出版だと54ページに、もう実際に車椅子に乗っているお子さんのイラストではなく写真が掲載されているので、ここで説明がしやすいのかと思いました。そういった疑問、草加市の児童の実態で、身近な人々と直接触れ合う体験ということで、今まで体験したことのないお子さんたちが、実際に体験をするとなつて、教科書には載っていますが、「どうしてこの子は車椅子に乗っているの」「なぜ歩けないの」と疑問が教科書の中で生まれたときに、先生方ってどうやって答えられるのかと疑問に思ったので質問させていただきました。

○説明員 そこは担任によって当然のことながら違ってくるとのことと、もう一つは、子どもたちが幼児期にどのような経験をして、あるいは幼児教育の中で、例えば校外学習、園外保育などの活動を通してどのような経験をしているかということによって大きく違ってきますが、そこでの気付きはとても大事にしなければいけないことだと思っています。その中で、どうして車椅子があるのかということ活動を場面、それから車椅子のマーク、先ほどマークのことが出てきましたけども、マークはどんなところにあるんだろう、街の中でどんなところにあるんだろうと探して、そして、そこについて考えるという、子どもたち自身が考えるという働きかけをしていくことが重要かと思っています。知識だけで教えるだけではなくて、子どもたちが、例えば、あるお店に行ったときには、入口の近くに車椅子のマークがある駐車場があったよ。どうして入口の近くなんだろうか。それが子どもたちが考えるきっかけになるかと思うので、知識だけではなく、見たものを通して学んでいくような働きかけをしていくということがそれぞれの担任の役割かと思っています。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に「小学校 音楽」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 音楽>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 音楽の教科書についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、音楽好きな児童が多く、歌唱・器楽とも意欲的に取り組んでおります。また児童自ら音楽的な見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を高めたり、知識・技能を身に付けたりする資質・能力が徐々に育成されてきております。

今後につきましては、学年間や題材間の連続性や系統性を踏まえて、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解し、表したい音楽表現をするための必要な技能を身に付け、質の高い音楽活動を通して音楽性を高めていく必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、音楽においては1つ目に、音楽的な見方・考え方を働かせた学習教材の選択、2つ目に、題材構成における学びの深まりといたしました。

次に、各発行者の特色・特長等についてご説明申し上げます。各発行者の第2学年と第3学年のものを例にとってご説明させていただきます。

まず、教育出版につきましては、初めに、第2学年の40ページをご覧ください。歌唱共通教材である「夕やけ こやけ」について、2ページ見開きで色鮮やかな写真とともに、縦書きの歌詞・楽譜が掲載されています。児童が美しい情景を思い浮かべ、児童同士共通のイメージを持ちやすくするための工夫がなされています。41ページには、学び方を知るためのコーナー「まなびナビ」というマークが付いており、児童自ら歌い方を工夫していく学びが展開できるよう工夫されています。続いて、第3学年、40ページをご覧ください。同じく歌唱共通教材である「ふじ山」について、6ページにも渡って取り上げられています。富士山の雄大さが伝わる、折り込み含め3ページにわたるワイドな写真、縦書きの歌詞、次のページには様々な富士山の写真や絵画が掲載されています。さらに次のページには、楽譜と「まなびナビ」マークとともに、表現を深めるための手立てが載っています。情景を思い浮かべ、児童同士で共通のイメージを持ちながら歌唱表現を深めていくことができるよう工夫がなされています。また、この「ふじ山」という教材は、前の38ページから続く、「4. 曲にあった歌い方」という題材の次に配列されています。38ページの「森の子もり歌」という作品は、器楽の副次旋律がついた歌唱教材です。このように、前の歌唱教材と関連させながら、表現の仕方を工夫する学びが深まる展開ができるようになっています。

続きまして、教育芸術社につきましては、初めに、第2学年54ページをご覧ください。同じく、「夕やけ こやけ」の教材が取り上げられています。こちらは写真ではなく絵が掲載されているのですが、1番と2番の歌詞の内容に合わせた絵が描かれているため、1番と2番とで歌い方を変えるヒントとして使えるようになっています。縦書きの歌詞は旋律のフレーズに合わせて改行がなされているため、児童にとって旋律のまとまりが感じ取りやすくなっています。また、音楽的な見方や考え方を働かせて表現を工夫するといった「考える、見つける、歌う」コーナーがあり、思考力・判断力・表現力が高まるための手順が分かりやすく示されています。

ます。学級担任が音楽の授業を受け持つことの多い本市において、この学びの手順は教員にとっても指導のしやすいものです。続いて、第3学年、40ページをご覧ください。同じく「ふじ山」の教材が取り上げられております。こちら、縦書きの歌詞は旋律のフレーズに対応しており、ブレスをするところに隙間が開いています。次のページの下には、発声の技能に関わる「歌声ルーム」、さらに次のページには、音楽的な見方や考え方を働かせて表現を工夫する、「見つける、考える、歌う」コーナーがあり、思考力・判断力・表現力が高まるための手順が分かりやすく示されています。また、この「ふじ山」という教材は、前の36ページから続く、「5. せんりつのとくちょうをかんとろう」という題材の中に構成されています。36ページの「とどけようこのゆめを」という作品は、リコーダーの副次旋律がついた歌唱教材で、ここにも、「見つける、考える、歌う、演奏する」コーナーが付いています。次の38ページには、鑑賞曲メヌエットが掲載され、ここにも「見つける、考える」コーナーがあり、表現教材と鑑賞教材を関連させながら、音楽表現の特徴を知覚・感受・表現していく学びが展開できるようになっています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久教育長職務代理 音楽という技能教科において、特に配慮した指導というか、得意な子もいるでしょうし、苦手な子もいるでしょう。そういった個人差に応じた指導などは、特徴的なことがあったら教えてください。

○説明員 草加市の子どもたちが音楽の授業において、得意・苦手とを感じる場面が歌唱や器楽、音楽づくりにおける知識技能に関わる場面だと考えます。

教育出版社では、器楽の苦手な児童には、巻末の折込に打楽器の奏法や、リコーダーの運指が掲載されており、楽譜のページとあわせて見ることができるようになっています。このように、楽譜のページとあわせて開いてみるができるようになっています。

教育芸術社では、そもそも器楽教材自体がリズムや運指に無理がなく、臨時記号なども段階的に使われているので、技能差が開きにくい特徴はあります。また、より進んだ学習活動を「チャレンジ」というマークで示しているところもあります。例えば5年生の57ページには、日本の音階の違いを学ぶ歌唱教材の隣に、「チャレンジ」というものが載っています。ここにはチャレンジ、2つの旋律の感じを確かめながら、琴で弾いてみましょうと書いてありまして、得意な児童が、琴に触れながら、自ら音を探っていくような学習が展開できるようになっています。



○加藤由美委員 今、琴に触れられると言われましたが、子どもたちが琴に触れることはできるのでしょうか。

○説明員 4年生の教科書には、どちらも琴を扱った教材が載っています。草加市でも多くの学校で琴があり、また貸し借りをする中で、触れられる機会をつくろうとしている学校が多いです。

○川井かすみ委員 メゾピアノやメゾフォルテなど、記号の記載に、同じ曲であっても、記載があつたりなかつたりするのですが、指導する上での違いはありますか。

○説明員 メゾフォルテ・メゾピアノが扱われているのは、教育芸術社では4年生、それから教育出版社では5年生で取り扱うようには掲載されています。学年が上がるにつれて、児童は曲の雰囲気に合わせて表現の仕方も変化させるなど、豊かな表現を求める気持ちが高まってきますので、そこで学習のねらいに応じて記号を使って、表現技能と知識を結び付けて繰り返し学べる必要があると言われてしています。

教育芸術社は、第3学年以上の巻末に、小学校で学ぶ全ての音符・休符・記号が掲載されていて、児童が未学習の記号に関わる表現の工夫をしようとしたときには、いつでも取り扱えるようには工夫がされています。学習指導要領上では、かつては取り扱う学年は決まっていたのですが、現在においては必要と考えられる時点で、その都度繰り返し指導していく。6年間を見通した指導計画に沿って学習を進める中で、音楽活動を通して徐々に実感を伴って理解して活用できる知識として身に付けていくことが大切と書かれていますので、繰り返し扱われるように、どちらも工夫されております。

○峰崎隆司委員 どちらも工夫はされているとは思いますが、音楽活動の楽しさを児童に体験させる、導入のところでもいいのですが、何か特徴的なものがあれば教えていただけますか。

○説明員 学習指導要領上では、音楽の楽しさを体験することを通して豊かな情操を養うと書かれていますので、どちらの教科書もとても特色が引き継がれて作られています。

例えば教育出版社では、どの学年の教科書にも「音楽のおくりもの さんぽ」という曲が掲載されています。これは全校児童が集まったときに合唱することで、お互いを合わせる楽しさが味わえるようになっています。他にも巻頭に、スキルアップと称して、「手拍子リレー」や「早口言葉ラップ」など、どんな学習の前にでも、常時活動として、活用できるような教材が掲載されています。

教育芸術社では、どの学年でも一つ目の題材が、「音楽とみんな・音楽でみんなとつながろう・音楽で心の輪を広げよう」といった音楽活動を通してつながり合う楽しさが味わえるよう

な内容が掲載されています。楽しい雰囲気の中で1年間の学習がスタートできるように工夫されています。また、イラストも充実して掲載されていますが、このイラストの4人のキャラクターが、表情とか、仕草とかつぶやきを通して、音楽活動の喜びや楽しさ、見方・考え方などが示してあって、音楽活動が高まるための児童の興味・関心が引き出せるような工夫が教育芸術社はされていました。

○宇田川久美子委員 例えば、教育芸術社は、奇数ページの上にほぼ二次元コードが付いていますが、実際に音楽、いまお話のあったような体験をするということはすごく大事だと思いますが、この二次元コードを利用するような場面、それが何か授業にいかされるような特徴があったら教えてください。

○説明員 どちらの出版社においてもこの二次元コードがとても充実したWebコンテンツにつながるようになっていまして、例えば、双方の解説動画や音源、ワークシートなどのWebコンテンツにつながるようになっています。どちらも特徴的で使いやすくなっていますが、教育芸術社においては、使うときには先生と相談してから、許可をしてから、みたいな表現が載っていますので、子どもが勝手に一人でどンドンとはならないように、やはり授業は、教員とともに進めていくという工夫がされているようです。

ただ、個別最適な学びと考えるときには、表現活動が終わった段階で、さらにこの曲、楽曲を詳しく調べていこうというところで、子どもたちがタブレットを使って、どちらも二次元コードから読み取って知識を増やしていくことはできるようになっています。

○加藤由美委員 これからコロナも緩和されて歌うことも非常に多くなるかと思うのですが、載っている選曲の特徴がなにかありましたら教えてください。

○説明員 選曲の特徴、どちらの教科書がどういうところは一概に言えるところはないのですが、どちらも歌い合うことで喜び合える、歌を通してつながり合える、それから、歌を聞き手に対して表現して、聞いている人とつながり合えるということが体験できるような教材はどちらも載っていると考えます。

○川井かすみ委員 草加市は音楽都市宣言をして、今年は30周年を迎えましたが、草加市にとってハープは切っても切れない縁があり、ハープ国際コンクールを始め、ハープフェスティバルなど毎年行われていますが、こういった音楽都市宣言をしているので、例えば音楽を教えるときに、教科書とはまた違った何か、鑑賞だったり、何か特別に、それこそハープを触ってみたりとか、草加市ならではの音楽について何か子どもたちに教えるっていう機会がありますか。

○説明員 教科書とは少し違う話になりますが、プロの演奏者が学校に来て、学校のピアノや楽器を使って演奏するという、それを見せていただくという機会が、大体4年生でさせていただいていることが多いです。プロの演奏者が2人来ていただいて演奏するというのに、応募できるような草加市の仕組みがあります。

本校でもそういうことは何年もやっていることですが、生のプロの演奏を聞いて、本当に素晴らしい音を体験して喜び合うという経験ができているのが、草加市の特長だと思います。

○宇田川久美子委員 音楽は世界共通だと思いますが、音楽教育を通じてSDGsについて何か関わりを持つみたいなどころはありますか。

○説明員 自然愛護や生命尊重ということが感じられるような歌詞の内容の曲がたくさん掲載されているので、歌う事を通して心の中で膨らませていく、情操させていくということができるとかと思っております。

○宇田川久美子委員 他の教科ですと、ここがSDGsのここに関連していると、アイコンになっていたりすることがあると思うのですが、音楽では、特にここに働きかけて、みたいな何かはないのですか。

○説明員 具体的な知識として結び付けていくようなものは、すぐに思いつくところがないのですが、歌詞の内容から心を情操させていくことが音楽科の特徴的なところでもありますので、そこが一番大きいかなと思います。

○宇田川久美子委員 指導の中でSDGsのことをお話する機会は特にありませんか。

○説明員 授業の中で、その歌詞の内容を取り上げたときに、この歌詞の大切な部分はどこだろうというところで、曲の中のキーワードに当たるところが大体出てきますので、そこを、「そうだね、生き物は大切だね」とか、「みんな仲良く共存していこうね」という気持ちを込めて歌おうという指導は出てきます。

○山本好一郎教育長 私から一点だけ。先ほどの説明の中で、教育芸術社は縦書きのブレスのところは空いていると、今見たら茶摘みなど他のものもそうなるんで、これは、この発行者の一つの、全学年を通した特色だって捉えてよろしいでしょうか。

○説明員 はい。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは次に、「小学校 図画工作」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 図画工作>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 図画工作科の教科書について、ご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、児童が主体的に活動し、自ら作り出す喜びを味わうことに課題が見られます。そのため「つくる」と「考える」は一体化していることに留意して、活動する時間の十分な確保が求められており、児童が主体的に活動する時間の十分な確保と、個々に応じた支援を充実させる必要があります。草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、児童が「つくりたい」・「描きたい」と自らつくり出す喜びを味わうことができる魅力ある題材や紙面で構成され、さらに自己決定し、できた喜びを味わうことができるような「つくり」「考える」活動の設定、また、友達と関わりながら制作や鑑賞する活動を通して、友達の作品の良さや考えに気付いたり、コミュニケーション力を高めたりできる活動の設定が必要と考えます。

以上の点を踏まえ、造形的な創造的活動の喜びを十分に味わわせることと、鑑賞活動の充実、共通事項を意識した指導を観点といたしました。では、これらの観点をもとに、教科用図書を見ながら具体的に説明させていただきます。

初めに、開隆堂出版の特長・特色についてです。まずは各学年の教科用図書のタイトルをご覧ください。各学年にはテーマがあり、その学年で使用する素材を使って文字が作られています。表紙をめくると、その学年で学習する題材に関わり深い作家から、タイトルについてのメッセージを紹介しています。また、二次元コードを読み取ることで、子どもたちに向けたメッセージの動画を視聴することができます。3、4年下巻を参考に、ご覧ください。16ページ、17ページの「むすんで つないで」、32ページ、33ページの「直線と曲線から生まれる形」、34ページ、35ページの「わくわくランドで遊ぼう」、50ページ、51ページの「みんなでたのしいだんボールランド」の題材で、木や竹の素材を使った工作や、友達と協力して活動する造形遊びがあります。2、3ページをご覧ください。これらの題材と関連して、竹工芸家のアーティスト、田辺竹雲斎から子どもたちに向けてのメッセージを見ることができます。動画では、高さ6.5mにもなる作品を、竹工芸家の方々が協力して、竹ひごを一本一本編んで作っている様子が映し出されます。そして、「一人ひとりの個性を大切にしながら、相手のことを理解して力を合わせたとき、思いがけない大きな力となり、人生を大きく豊かにする」と伝えています。学校で学ぶ図工・美術が、社会の芸術とどのように関係し、作家の方がどのような思いで作品を作っているのか学ぶことができます。

8ページ、9ページをご覧ください。各題材のページには、題材名の横に「学習のめあて」が明示されています。めあてにあったキャラクターは親しみやすく、大切な観点は朱書きとア

ンダーラインが引かれ、分かりやすくなっています。文章のフォントは柔らかく、写真や背景のレイアウトが工夫され、全体的に明るく親しみやすい印象を受けます。題材名の上、リード文の最後にオレンジの再生マークがあります。これは二次元コードを使用し、導入についての映像を視聴できることを示してあり、全ての題材にあります。この題材、「いろいろ絵の具研究所」の映像では、二つの映像を見ることができます。一つは、「はじめに」です。学習の目当ての中心となるキャラクター、こころさんが制作手順を分かりやすく説明し、どんな工夫ができるかな、と呼びかけ、学習意欲を高めさせてくれます。もう一つの映像は、絵の具のいろいろな表し方です。ぼかしあみやストロー、ビー玉、ダンボールなどを使って表現する方法を分かりやすく紹介しています。また、左下の二次元コードを読み取ることで活用できる資料の内容が表示されております。作品カードや振り返りシートなど、指導者が活用しやすい資料が保存されています。掲載されている参考作品には、作者のコメントが記載されています。作者への思いを知ることで、鑑賞活動にもつながることができます。9ページの右下には、他教科と関連した「あわせて学ぼう」が全ての題材に記載されています。教科横断的な学習として、どのように関連しているのか詳しく書かれています。

続いて、特徴的な題材を紹介します。1、2年下巻、16ページ、17ページをご覧ください。「おはながみ、かさねてすかして」という題材は、お花紙を重ねたり、光に透かしたりして、触り心地や変化を楽しむ題材です。紙の素材を楽しみ、偶然できた形や色の変化に気付くことができ、低学年で身に付けさせたい感覚を養い、「つくる」と「考える」を一体化させた活動が期待できます。

次に、日本文教出版の特色・特長についてです。5、6年上巻、8ページ、9ページをご覧ください。「学習のめあて」では、指導と評価を一体化し、「知識技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点に合わせて記載されています。重点的な観点について、紙面上にマークで表しています。この題材の場合は、電球のマークのため、「思考力、判断力、表現力」が重点となっています。また、「かんしょうのヒント」がどの題材にも示されています。黒い虫眼鏡のキャラクターが吹き出しで呼びかけ、良さや面白さに気付きやすいように工夫されています。また、タブレットを使って鑑賞活動ができるアプリが充実しています。

55ページをご覧ください。「デジタルスタンプづくり」や「もようTシャツづくり」ができるアプリが示されております。69ページには、ミニ・アートカードの付録があります。二次元コードには、デジタルアートカードがあり、子どもたちが楽しみながら鑑賞できる資料が

たくさんあります。36ページ、「広がる図工」、46ページ、47ページの「図工のみかた」をご覧ください。こちらのページでは、身の回りの形や自然・資源、伝統工芸など、SDGsに関する資料で学びを広げた内容になっています。また、今回の教科書では、プラスチック製の材料を使用する題材を前回より大幅に削減するなど、環境面の工夫がされています。二次元コードの資料では、用具の使い方や技能の説明が段階的に示されており、また、参考作品が多数掲載されており、拡大したり、360°回転できたりする機能があります。18ページの「糸のこスイスイ」を例に紹介します。材料用具の使い方の動画では、電動糸のこぎりの操作の説明があります。「”は”の取り付け方」「板の切り方」「形を切り抜く方法」「角で回して切る方法」「コの字に切る方法」と操作ごとに分かれています。児童が個人のタブレットを使用し、自分の制作状況に応じて繰り返し活動できることが考えられます。教科書の巻末ページにもイラストによる説明はありますが、複雑な操作で理解が難しいとされる電動糸のこぎりの説明は、動画は効果的な方法と考えます。また、この題材では、児童の参考作品が32作品と大変多く記載されています。指で簡単に拡大できる機能、360°回転させて作品を見ることができる機能があります。特に立体作品では、横から見たり、後ろ側から見たり、全体的なバランスを考えて表現や鑑賞をしていくので、役立つ機能とと思われます。

続いて特徴的な題材を紹介します。1、2年上巻、32ページ、33ページをご覧ください。

「いろいろなかたちのかみに」という題材は、切り取り終えた紙や、開いた箱の形から、どのような形に見えるか見立てて表現する題材です。材料の形から発想を広げ、思いのままに描画材で描くことができ、低学年で身に付けさせたい発想を養い、「つくる」と「考える」を一体化させた活動が期待できます。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 プラスチック素材が減ったとお話していただきましたが、作品づくりにおいて、やはり作って家庭に持ち帰った後に、もう不要だから、あとは壊れたりしたときに、バラバラにしてそれぞれに分別して捨てなくてはいけないとなると、果たしてそれがSDGsと言えるのかと疑問があり、そういった不要になって処分するときのことも考えた作品づくりにはなっているのでしょうか。

○説明員 2者とも、ほとんどの工作作品においては、家にある身近なもの、また廃品を使って行う立体作品が多いです。最近では作品が終わって、家庭に戻って写真を撮って保存する家庭が多いと思うのですが、最終的に市の基準によって分別が必要かと思います。しかし、家庭

から持ち寄るときに、紙だけの材料にする、金属は使わないなど設定をしていれば、ある程度の簡単な処分ができると思います。2者とも工夫されていると思います。

○峰崎隆司委員 共通事項の取り上げ方で、2者で何か特徴はありますか。

○説明員 開隆堂ですと、3つのキャラクターがいるわけですが、こちらが、形や色、イメージとなっております、子どもたちに呼びかけています。この教科書の中でも、吹き出しの呼びかけ、また二次元コードの方を読み取ると導入の方で呼びかけて、ここの題材ではこれに気を付けて学ぼうねっていうことであっております。

日本文教出版も、同じように3つの観点で絵と電球と、ピースマークですが、こちらで呼びかけていたり、途中の虫眼鏡のキャラクターや、電球や手のマークで、授業で気を付けてやろうということ呼びかけております。表現の仕方は違いますが両方ともそちらについては、表示されております。

○山本好一郎教育長 私のほうから一点、鑑賞の活動に関して、それぞれ教科書2者とも扱っていると思うのですが、特色が何かあれば教えてください。

○説明員 開隆堂は、表現と鑑賞はもう一体化させて行うものですから、授業中の制作活動の中でも鑑賞していけるようになっております。また、作品例の下には、児童の作った作品の思いがそれぞれ書いておまして、その作者の思いを知ることができます。

日本文教出版ですと、先ほど言った虫眼鏡のキャラクターが鑑賞のマークですが、虫眼鏡がこういったことはどうかと呼びかけております。また、二次元コードでは本当に参考作品が多いです。参考作品を見ながら、自分の好きなのはどういうところかなど、様々な作品を見る機会ができることができます。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、ここまでの報告を終えさせていただきます。

〈採択〉

○山本好一郎教育長 これより、「理科」「生活」「音楽」「図画工作」の教科用図書の採択に入ります。

それでは、投票用紙をお配りいたします。投票用紙、皆様お手元にございましたら、ご記入の方をお願いしたいと思います。

記入の方はお済みでございますか。

それでは次に、投票箱に何も入っていないことを確認したいと思います。

(「空でございます」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 投票箱に何も入っていないことが確認されました。皆様よろしいでしょうか。それでは、加藤委員から時計回りの順で投票箱に投票をお願いいたします。

( 投 票 )

○山本好一郎教育長 それでは、開票につきまして加藤委員の立ち会いのもと、事務局で確認をいたします。

( 開 票 )

○山本好一郎教育長 それでは集計結果を発表いたします。

まず、「理科」でございますが、大日本図書株式会社 1 票、教育出版株式会社 5 票でございますので、教育出版株式会社といたします。

続きまして「生活」でございますが、東京書籍株式会社 6 票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

続きまして「音楽」でございますが、株式会社教育芸術社 6 票でございますので、株式会社教育芸術社といたします。

続きまして「図画工作」でございますが、開隆堂出版株式会社 6 票でございますので、開隆堂出版株式会社といたします。以上でございます。

---

○山本好一郎教育長 それではここで 10 分間休憩を取りたいと思います。2 時 25 分まで休憩といたします。よろしくお願いいたします。

————— 休憩 —————

---

◎再開の宣言

○山本好一郎教育長 休憩前に引き続いて、臨時会を再開いたします。

---

○山本好一郎教育長 それでは「小学校 家庭」の選定資料の報告に入らせていただきます。



## <小学校 家庭>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 家庭科の教科書について、ご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、家庭生活に関して、児童は調理や制作などの実習に対し、意欲的に取り組んでおります。家庭科の学習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けようという意欲を持ち学習に取り組んでいます。

しかし、知識・技能の確実な習得には個人差が大きく、また、家庭科の学習を通じて学んだ知識・技能を活用し、明日の自分の生活にいかしていく必要があります。草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、家庭科における観点を次の2点といたしました。1点目は、確実な知識・技能の習得。2点目は、生活の営みに係る実践的・体験的な学習活動でございます。各発行者の特色・特長等についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。確実な知識や技能の習得につきましては、4ページ、学習の進め方をご覧ください。この教科書の特長である、3ステップでの学習過程が示されています。題材ごとに「(1)見つめよう」「(2)計画・実践しよう」「(3)生活にいかそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップ構成になっており、問題解決的に学習できるようになっています。22、23ページをご覧ください。実習題材は、写真を多用し、数多くの実習過程を見やすく、見開き2ページにわたって掲載し、実習の流れがよく分かるようになっています。さらに、Dマークの二次元コードを読み取ると、技能に関する動画が表示され、活用した学習ができるようになっています。141ページをご覧ください。141ページには布を縫う、143ページには布を裁つなどの作業的な学習の実寸大の資料が、「いつも確かめよう」として、巻末にまとめて提示されています。次に、65ページをご覧ください。本市の観点である「生活の営みに係る実践的・体験的な学習活動」につきましては、「生活を変えるチャンス」のページで学習したことをいかして、家庭での実践を例示することで、思いや願いをもとに実践することができるようになっています。続いて、130ページをご覧ください。生活の営みに係る実践的・体験的な学習活動として、幼児や高齢者など異なる世代の人々との関わりを通して、共生の視点に気付くことができるように示されています。最後に6ページをご覧ください。巻頭の目次の次に、「成長の記録」として、2年間の学習内容の一覧表があり、学習の振り返りと、自分の課題を見つけ、自らの生活にいかすことができるようになっています。

開隆堂出版についてご説明いたします。確実な知識や技能の習得につきましては、基礎的・

基本的な学習をスモールステップで積み重ねることで、着実に知識・技能を身に付けられるよう構成されています。まず、3ページをご覧ください。合わせて6、7ページをご覧ください。題材ごとに学習の流れの3つのステップ、「①気づく・見つける」「②わかる・できる」「③生かす・深める」として、学習の進め方が示されています。10ページをご覧ください。各ステップに合わせて、めあての提示とともに、達成したかどうかのチェック欄も設けられています。15ページには、実習で身に付けるべき技能のチェック欄が、19ページには、学習後の振り返りと自己評価を促し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう工夫されています。14、15ページをご覧ください。2ページでの見開きかつ、流れがつかみやすい横並びの配列と実習の流れが、写真と説明で分かりやすく表示されています。さらに、15ページ右上にある二次元コードによる動画によって、確実な技能の習得ができるようになっています。また、安全面の注意が必要なところについても、動画とあわせて注意喚起されています。18ページをご覧ください。本市の観点である「実践的・体験的な学習活動」については、各題材の終わりに「生かす・深める」があり、学習したことをどのようにいかしたいかを児童に考えさせ、実践できる配慮がされています。また、自分や家族の「生活」を見つめ直し、生活をより良くしていくために、社会や家庭、地域や各教科のつながりから生活を見つめるストーリー性があります。続いて37ページをご覧ください。「レッツトライ生活の課題と実践」において、「課題解決のステップ」を示し、学習したことを振り返り、新たな課題を解決するための取組が実践できるよう工夫されています。最後に、136、137ページをご覧ください。中学校技術・家庭科「家庭分野」との各分野別学習のつながりを、小学校の学習内容を振り返る内容と、中学校の学習に対する見通しとつながりが円滑な接続となるように、分かりやすく示されています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○峰崎隆司委員 SDGsに関連する学習内容は、それぞれどのように使用されていますか。

○説明員 SDGsでございますが、SDGsに関連する学習内容は、東京書籍につきましても、消費の学習を行った後に、視点として、SDGsで作る私達の未来が、掲載されております。また、開隆堂出版においては、5、6年の接続部分に、SDGsにつながる活動が掲載されています。

両者とも教科書の中に明確にSDGsを提示しております。さらに、各題材の学習の中には、確実に持続可能な社会の実現に向けた視点が提示されています。扱いや指導方法等で両者とも

掲載がされています。

○川井かすみ委員 2点質問させてください。

買い物の支払い方法について、現金での支払いが記載されているページがありましたが、現金以外の説明はありますでしょうか。

もう1点、調理において、野菜くずが出ないような工夫や油の後始末についての内容記載はありますでしょうか。

○説明員 買い物の方について先にお答えいたします。東京書籍、開隆堂出版ともに、現金以外、プリペイドカード、図書カード、交通系ICカード、商品券等に関する説明が掲載されております。説明としては、お金と同じ扱いになるという点も、両者同様でございます。

野菜くずや油の後始末に関してでございますが、炒めおかずの題材において、両者とも野菜くずが出ない工夫については、文章として明確には掲載されておきませんが、人参の皮はむかないことになっておりまして、野菜くずが出ない工夫はされていると考えられます。

油の後始末に関しましては、両者ともに環境マークが提示されまして、注意事項として、油汚れは「不要な布や紙で拭き取ってから洗う」ということが、提示されております。

○加藤由美委員 今はオール電化の家庭も多いかと思いますが、IHの調理器具の使用について説明されているところはあるのでしょうか。また、学校で調理実習が行われますが、IHは使用されていますか。

○説明員 IHに関しましては、調理器具として両者ともに表示はされています。熱源、それから調理器具としてされております。また、扱いとして注意点等も記載されております。ただ、学校での調理実習に関しましてはガスで行っておりまして、IHを使つての調理実習は現在、行われておりません。

○山本好一郎教育長 私からひとつ、先ほど説明の中で、生活の営みに関連することで、東京書籍は生活を変えるチャンス、ステップ、開隆堂はレッツトライ、いずれも載せています。東京書籍は、発表とステップがありますね。開隆堂は、実践を振り返っていく、そういった流れの違いなどが感じられますが、特にこれは大きな違いでもなく、どのように説明すればよろしいですか。

○説明員 発表と特にしなくても、例えば、実践したものはポートフォリオとして残したり、今でしたら、Chromebookの方に自分が作ったものをためていくといった活動もしておりますので、発表という明確な文言はなくても、家庭科室での掲示やChromebookの中でみんなの発表を、それぞれが自由に見たりという場を設けることができますので、そういった部分で差はないと

考えられます。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは続きまして、「保健」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 保健>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 保健の教科書について、ご説明申し上げます。まずは、草加市の児童の実態でございますが、草加市立小中学校体力向上推進委員会では、健康な生活のためには、運動や食事、睡眠等が深く関わっていることを市内全校に啓発してまいりました。しかしながら、朝食を摂らなかつたり、睡眠時間が十分ではない児童がいたりするなど、実生活で実践されていない現状が見られます。また、各校で交通安全教室を開催するなど、安全教育を行っておりますが、残念ながら、学校内外での児童の事故が毎年起っている現状がございます。自分の生活を見直すことを通して、健康や安全な生活について実践することのできる資質や能力の育成が課題であると言えます。

そのような草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、資質・能力をバランスよく育成する学習過程の工夫と、規則正しい生活習慣の確立の2点でございます。それでは、各発行者の特色・特長につきまして、5・6年生の教科書でご説明を申し上げます。

初めに、東京書籍でございます。まず教科書の27から30ページでございます。各項目を学習するに当たりまして、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4つのステップで構成されており、主体的・対話的で深い学びを進められるように、紙面の構成が工夫されております。また、学習に必要な資料が多く、それらの資料などをもとに、1単位時間の中でワークシートのように書き込む欄が多くあり、児童の思考を促しながら学習を進める構成となっております。28ページをご覧ください。写真やイラストは、男女の偏りがないように配慮されておまして、車椅子を使用している児童や外国籍の児童など、共生社会を意識した表現がなされております。55ページをご覧ください。「気づく・見つける」で、日頃の生活行動を振り返らせ、学習を通して普段の生活にいかせるように工夫がされております。57ページ右側をご覧ください。動画やシミュレーションなどの二次元コードを使った資料がありまして、ここでは血管の動きの動画でございますが、児童の学習進度に合わせた活用が可能となっております。

次に、大日本図書でございます。教科書の26、27ページをご覧ください。1時間の学習

の流れが、「つかもう」「考えよう」「調べよう」「活かそう」といった4つの段階で、見開き2ページを基本として構成されており、主体的・対話的で深い学びを進められるように、紙面の構成が工夫されています。学習課題を初めから提示せず、話し合いや生活の振り返りから、児童が主体的に課題を持って取り組めるよう工夫されています。39ページをご覧ください。章の終わりには、学習内容が1ページにまとめられ、学習したことを振り返るための工夫がなされています。41ページをご覧ください。単元の導入では、「学習ゲーム」や「アンケート」などがあり、二次元コードを読み取ることで、単元の課題につながる内容が示され、その内容に答えることで個々の児童の実態に応じた意欲を喚起する工夫がなされています。42ページの表題の右側をご覧ください。各時間の初めに、「たのしい保健ウェブ」の二次元コードが掲載され、児童が端末を使って簡単に動画資料を視聴することができるようになっております。

次に、大修館書店でございます。まず教科書の28、29ページをご覧ください。1時間の流れが、「課題をつかむ」「考えたり話し合ったりする活動」「まとめ」のシンプルな3つのステップで構成されており、1単位時間のページ数が少なく、児童が無理なくゆとりを持って、主体的・対話的で深い学びを進められるように紙面の構成が工夫されています。30、31ページをご覧ください。発展的な内容は、資料「もっと学びを広げよう深めよう」に集約され、さらに学びを深めたい児童など、個々の児童の進度に合わせた個別最適な配慮がなされています。56、57ページをご覧ください。生活習慣病の予防については、がんや心臓病といった学習の前に、むし歯や歯周病といった児童の身近な生活習慣病を取り上げているところが特長となっております。写真やイラスト等の資料に加え、二次元コードによるデジタル資料の分量のバランスがよく、スライド形式になっており、大型テレビに表示した場合にも、授業に活用しやすいものとなっております。59ページ右側をご覧ください。各所に、「体育の窓」のコーナーがあり、体育の学習とのつながりを意識して学ぶことができるよう構成されています。

次に、文教出版でございます。まず教科書の26から31ページをご覧ください。各項の流れが、本時のめあてを提示した後、「本時のメニュー」で見通しを持たせ、学習内容と学習活動を「ミッション」と「ステージ」と表現し、児童が主体的・対話的で深い学びを進められるように紙面の構成が工夫されています。60ページをご覧ください。学習のまとめの後に、「もう一步先の自分へ」の記述欄があり、学習したことを生活の中でいかすことを意識して考え、表現することにつながられるようになっております。また、児童が自分で考え、意見を持

ちやすいように思考を促すようなグラフやイラスト、写真等の資料が多く、全ての単元で複数の二次元コードがあり、教師や児童が個々の状況に応じて活用できるよう資料が用意されています。81ページをご覧ください。単元末には、「わたし、あなたの〇〇宣言」の欄があり、自分で考えを持ち、友達と交流しながら、さらに深められるよう工夫されています。

次に、光文書院でございます。まず、教科書の26、27ページをご覧ください。1時間の流れが、「見つけよう」「本時の学習課題」「考えよう・話し合おう」といった学習活動、「学習のまとめ」「学んだことを生かそう」といった5段階で構成されており、児童が主体的・対話的で深い学びを進められるように紙面の構成が工夫されています。学んだことを書いたり、話し合ったりする活動により、思考力・判断力・表現力が育成できるように工夫されています。39ページをご覧ください。単元の扉に、学習内容のイメージがつかめる4コマ漫画を掲載し、単元のはじめで、自分の生活を振り返って、課題設定ができるよう工夫されています。

48、49ページをご覧ください。学習内容の中で特に大事な用語や文が、児童にとって分かりやすいよう、太字で目立つように工夫されています。また、48ページの表題の右のように、二次元コードで児童がさらに深く学ぶことができる動画等の資料が用意されています。

最後に、Gakkenでございます。教科書の30から33ページをご覧ください。まず、30ページ左上にありますように、毎時間、学習の流れが3つのピースで提示され、児童が視覚的に見通しを持って、主体的・対話的で深い学びを進められるように紙面の構成が工夫されています。導入では、自分の生活経験の振り返りなどから、学習課題を明確にする構成となっております。32ページ右側をご覧ください。二次元コードを読み取ることで、さらに詳しい内容を学習できるよう工夫されています。また、イラストや写真を中心としたレイアウトが工夫されており、配色の見やすさ、学習の思考を助けるキャラクターによる説明なども多く取り入れられ、学習内容を理解しやすくする工夫がなされています。65ページをご覧ください。

「ほけんのはこ」というコーナーがあり、専門家の話や、発展的な内容が記載され、健康について考えられる工夫がなされています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○峰崎隆司委員 規則正しい生活習慣の確立ということで、運動と健康の関連、まず大事ですといった内容は、例えばどんなどころで、各教科書は示されているのでしょうか。

○説明員 どの発行者も、運動と健康や成長についての関連については、発展的に紹介をしています。

例えば、東京書籍ですと3・4年生の43ページ「運動を楽しく続けよう」、大日本図書の3・4年生で言いますと20ページ「もっと知りたい」という単元、大修館ですと3・4年生の39ページ「体育の窓」など、大修館42ページの「もっと学びを広げよう・深めよう」です。それから文教出版ですと3・4年生の9ページ「エピソード」というところ、それから光文書院で言いますと3・4年生の37ページ「さらに広げよう・深めよう」、Gakkenですと3・4年生の41ページに「運動の例」あるいは「つなぐ」というところで、どの発行者も運動と健康や成長との関連について、発展という形で紹介がされております。

○川井かすみ委員 2点教えていただきたいのですが、性の多様性についてと喫煙についての各者特徴はありますか。

○説明員 まず、性の多様性についてですが、どの発行者も、体の発育発達の最後の方の発展の中で、性の多様性については説明し、また相談先等を紹介しております。例えば、3・4年生の教科書ですが、東京書籍で言いますと38ページの発展、大日本図書で言いますと3・4年生の39ページ、大修館で言いますと3・4年生の37ページ、文教出版で言いますと3・4年生の31ページ、光文書院で言いますと3、4年生の33ページ、Gakkenで言いますと3・4年生の45ページ、各者、体の発育発達の過程の中で多様性について説明しておりますし、相談先等も紹介しているというところがございます。

また、喫煙についてでございますが、こちらは5・6年生の教科書の中で、6年生の「病気の予防」の中で、「喫煙の害」という部分がございます。この中で、体への影響について、汚れた肺やサーモグラフィーによる血流量の変化等の写真資料等を具体的に示しております。その写真等で具体的に示すとともに、受動喫煙等についても扱っておりますし、また喫煙については中学2年で学習する、タバコの副流煙の有害物質等についても、どの発行者も発展として取り扱っておりますし、中学校への系統性を持たせております。

○小澤尚久教育長職務代理 交通事故のお話もありましたが、子どもたちが実感として、注意していこうというような記述等、効果的な記述等ございましたら、改めて教えてください。

○説明員 例えば5、6年の5年の学習内容で、「怪我の防止」ということを学習いたします。その中で特に、自転車の事故等が子どもたちは多い現状でございますので、自転車の安全の利用につきましても、怪我の防止の学習の中で、特に詳細については発展学習として、5年の「怪我の防止」のところで学習するようになっております。

○小澤尚久教育長職務代理 効果的な取り上げ方の記述はありますか。

○説明員 例えば、5年の「怪我の防止」の、東京書籍で言いますと21ページ、どの発行者

もこのように、子どもたちが普段の生活の様子を振り返って、危険箇所を調べたり考えたりするという導入から入りまして、そこから事故や怪我の原因等を学ぶようになっております。

○宇田川久美子委員 先ほど、喫煙の話がありましたが、最近、大学生の薬物の逮捕もありました。早い段階で薬物について正しい知識を持っていることは、すごく大切だと思うのですが、薬物乱用については、何か特徴的な記載や、それから二次元コードなどを利用して、より学べるような事があったら教えてください。

○説明員 どの発行者につきましても、まず薬物の害というところは、6年生のところの「喫煙の害・飲酒の害」の後に、「薬物乱用の害・健康」というところで学んでおります。特に、正しい薬の使い方については、用法用量を守って使用することというのはありますが、発展のページ、二次元コードの中で、発展学習として、そのような薬物乱用の害については、さらに詳しく載っているところでございます。また写真等の資料も教科書に載っておりますし、二次元コードでさらに詳しく学べるような資料等も載せられているというところでございます。

○宇田川久美子委員 各発行者でしっかりと触れられているということですね。

○説明員 はい。この薬物乱用の害については、どの発行者も一つの単元として取り上げておりますので、詳しく学べるようになっております。

○山本好一郎教育長 私から一点。熱中症に関して、発展で扱っている教科書の話があります。基本的には、全て発展で扱われていますか。

○説明員 熱中症につきましては、5年「怪我の防止の発展」として、どの発行者も予防と手当について説明が掲載されております。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは続きまして、「小学校 外国語」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 外国語>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、外国語の教科書についてご説明申し上げます。令和2年の新学習指導要領が施行され、小学校5・6年生で外国語が教科化されてから4年目となりました。小学校5・6年生は外国語の教科書を使用し、3・4年生につきましては文部科学省の「Let's Try!」という教材を使用しております。小学校5・6年生の外国語の目標といたしましては、

「聞くこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「読むこと」「書くこと」の4技能の5領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎を育成することとなってい



ます。

次に、草加市の児童の実態でございますが、令和4年度草加市学力学習状況調査の質問紙で小学校5・6年生の8割以上が「外国語の授業が楽しい」と回答しているとともに、「外国語の時間に進んで聞いたり、話したりしている」と9割の児童が回答しています。

そこで、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、コミュニケーションを図る楽しさを体感できる言語活動の充実と設定しました。ここで言うコミュニケーションとは、外国語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うということであり、外国語の目標となっている能力のことです。それでは、各発行者の特色、特長についてご説明申し上げます。各発行者、第6学年の単元を例にとりご説明申し上げます。

初めに、東京書籍株式会社でございます。82ページをご覧ください。単元のはじめに、Our Goalで、単元末のゴールを「中学校生活や将来の夢について伝え合おう」と設定しています。左上の二次元コードを読み取ることで、この単元を学んだ後の最終的な児童のモデル動画を視聴することができ、クラス全体で単元の見通しを持って取り組むことができるようになっています。83ページをご覧ください。Watch and Thinkでは課題が提示され、Your Planで自分自身の考えについて整理する構成となっております。84、85ページをご覧ください。見開き2ページで、単元のゴールを見据えて、学習内容がスモールステップで定着を図ることができるよう、聞く・話す・書く・読むの4技能の活動が系統的に取り組むことができるようになっています。86、87ページをご覧ください。Step1で、それまで学習してきた表現を確認し、Step2で、それらをもとに会話内容を広げていきます。87ページ、Your Goalで巻末にある「将来カード」を活用し、自分の考えや意見を英語で表現することができるようになっています。さらに特長といたしましては、別冊でMy Picture Dictionaryが付いており、単元で使用する単語が1冊にまとめられています。別冊42ページをお開きください。2年間の各単元の目標をまとめたCAN-DOの樹等も資料として活用することができるようになっています。

次に、開隆堂出版株式会社についてでございます。96、97ページをご覧ください。単元の初めに、GOALでは、「中学校生活でしたいことや頑張りたいことなどを発表することができる」と設定し、GOAL下のチャートで、どんな学習をするのか、どんなことができるようになるかを提示し、学習の見通しを持って取り組むことができるようになっています。98、99ページをご覧ください。聞く活動が3つ設定されており、聞く活動を十分に行った後に、Let's Try2や、Activity1で、実際に英語を使い、自分の考えや気持ちを伝え合う活動が設定されています。また、キャラクターの吹き出しで、考えや気持ちについて考えさせる工夫がござ

います。102、103ページをご覧ください。Let's Readでは、何度も聞いたり話したりした英語を読む活動があり、Activity 3では、「中学校の先ばいや先生、友だちに向けて」のように、相手意識を持って、中学校でしたいことや頑張りたいことを発表し、動画を撮る活動があります。また、Let's Write 3では、これまで学習してきた語句や表現を書き写す活動があります。104ページをご覧ください。Around the Worldの単元で、多文化・異文化を深めることができるようになっていきます。105ページをご覧ください。各単元の後に、これまで学習してきた表現や語句を用いた短い読み物があり、読むことの力をつけることができるようになっていきます。また、各学年別冊、Word Bookがあり、活用することができます。

続いて、株式会社三省堂についてでございます。4ページ、5ページをご覧ください。1年間の学びで書かれているように、各学年とも大きなUnitから作られ、各単元はHOP STEP JUMPで構成され、JUMPでユニットの総括の活動があります。82、83ページをご覧ください。Panoramaで、Lessonで学ぶ語句や表現に出会います。87ページをご覧ください。Let's Playのように、「つきたい職業当てクイズをしよう」等ゲーム的な要素で楽しく学べるようになっていきます。90、91ページ、Step-upをご覧ください。Let's Tryでは、Lessonの最後にまとめの言語活動が設定されています。104、105ページをご覧ください。年間3回のJUMPの活動では、ページ右上にある二次元コードを読み取ることで、言語活動のモデル動画を視聴することができ、2つのLessonを通し、学習した表現を使い、さらに深める活動が設定されています。さらに右下のJUMP Plusでは、相手意識を明確にした自己紹介の動画を作成するという課題が設定されています。特長といたしましては、107ページをご覧ください。物語を通して、既習語句や絵から内容を推察する力を養うことができる、Story Timeが設定されています。また、別冊絵辞典My Dictionaryをご覧ください。多くの単語が紹介されているとともに、34ページからは、各学年で学習した表現のリストがまとめられています。

続きまして、教育出版株式会社についてでございます。78、79ページをお開きください。Goalで、「将来の夢を発表しよう」と設定し、目指す姿を共有しています。右下にあるThinkで、伝える内容やコミュニケーションについて考えさせるよう工夫されています。80、81ページをご覧ください。Let's Listen 1・2のように、聞く活動を多く取り入れ、Let's Sing 1・2で、歌での口ならし活動が行うことができるようになっていきます。82、83ページをご覧ください。Activity 1では、聞いたり話したりする活動を主に行い、「友達の夢をどのように応援するといいいかな」のように、児童が話したいと思うような言語活動の工夫がされています。84、85ページをご覧ください。Final Activityでは、「みんなの将来の夢を書い

た風船を集めて、「夢の気球」をつくろう」のように、目的意識を持って活動に取り組むことができます。巻末ワークシート7をご覧ください。My Dreamを児童が個々に仕上げ、こちらのマークシートを85ページに書いてある、右下のような掲示物を作成できるようになっています。続いて108ページ右のBINGOをご覧ください。特長といたしましては、巻末資料として多くの単語カードが付属され、巻末のワークシートでは活動後に、学級の掲示物として活用することができるようになっています。さらに巻末のワークシート9では、「My Bookをつくろう」として、学んだことを書き溜めるポートフォリオとなるミニブックを作成できるようになっています。

次に、光村図書出版株式会社についてでございます。74、75ページをご覧ください。Goalでは、「自分の将来について考えるために、夢宣言をすることができる」と設定し、目的意識を持って取り組むことができるとともに、Goal下のHop、Step、Jumpと見通しを持って取り組むことができるようになっています。また、右下のあるAbout Youで、単元的话题を自分事として考え、伝えたいという気持ちを高める工夫があります。76、77ページをご覧ください。76ページで多くの英語を聞く活動をした後に、Let's Try. で入りたい部活動について話し合います。さらに、Plus Oneの活動を通し、お互いの考えを深める工夫があり、Responseで児童の自然な感情を英語で発話させる工夫があります。80、81ページをご覧ください。Let's write and speakでは、右上の二次元コードのモデル動画を見ることで、ゴールのイメージを持つとともに、児童が発表の工夫をすることができるようになっています。続いて110ページをご覧ください。All About Meでは、1年間の学びを可視化できるポートフォリオ形式のシートがあり、自己の成長を感じることができます。また、学年に付属されている教科書から取り外すことができる絵辞典Picture Dictionaryが付属されております。Picture Dictionaryの14、15ページをお開きください。表現を調べるだけでなく、児童が使いたい言葉を書き足すことができる「My単語欄」が設定されています。また、こちらの別冊は児童がなくなないように、教科書に戻せるように工夫がされております。

次に、株式会社新興出版社啓林館についてでございますが、92、93ページをご覧ください。GOALでは、中学生になったらやってみたいことを伝えることができるようになると設定し、各Stepで学びの見通しができるようになっています。また、GOAL下の二次元コードを読み取り、言語の使用場面を見ることで、単元のゴールイメージをつかむ工夫がございます。95ページ中段、Activity、97ページ中段、Activityでは、児童が授業の中でやり取りを行い、相手の英語をメモすることにより確認することができるようになっています。さらに、95、

97、99ページの下段では、Tipsという単元があり、言語活動に必要な秘訣が示されています。98、99ページをご覧ください。Activityでは、中学校を紹介してくれた人に、中学校でやってみたいことを含めたお礼の動画メッセージを作り、その内容を手紙にも書きましようとして設定し、相手意識を持ち、児童が興味を引くような課題が設定されています。100、101ページをご覧ください。Did you know?で異文化情報や単元に役立つ興味深い情報を取り扱っています。108ページをご覧ください。特長といたしましては、108ページから129ページまで、Word Listが付属されています。さらに巻末に単語カードが豊富に準備され、Activity等で児童が活用することができるようになっています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 各者、別冊やカードなどが付いていますが、活用する上でのメリット、デメリットを教えてください。

○説明員 多くの言語活動を授業内で行うと思うのですが、やはり語彙力が少ないと言語活動にも広がりを持たれないと思いますので、こちらの別冊を見ながら、自分の好きなものは何かとなったときに、ワードリストがあると、どんどん会話の中に取り込めるという利点があると思います。ただ、別冊ということになっていきますと、紛失してしまったり、カードがどこかに行ってしまったなど、そういったデメリットがあると思いますが、カード等があることによって、言語活動に幅が広がると思います。

○小澤尚久教育長職務代理 先ほど、8割の児童が英語が楽しいと話していると話がありましたが、意識レベルがすごく高くなってきている、この草加の子どもたちを、さらにコミュニケーションの楽しさを体感できるような工夫としたら、特に工夫されているという部分があれば、いくつか教えてください。

○説明員 各発行者、目的意識や相手意識を持って、どの場面でどのような英語を使うかということで、自分の気持ちや考えを伝え合うということに大変工夫されているかと思います。特長としては、例えば東京書籍、6学年の53ページのYour Goalにあるように、世界のつながりカードを使って、このカードを使ってグループで発表しようなど、このようなカードを用いて言語活動をするということも大変楽しく、自分の気持ちが、思いが乗るのかと考えられます。

また、開隆堂では、6学年103ページ、Activity3、中学校の先輩や友達に向けて頑張りたいことを発表して、その後に動画を撮りましよう、こういった活動も、子どもたちは大変、自分の思いが載りやすい活動だと思います。

続いて、三省堂では、JUMP Plusという単元がありますが、自分の住んでいる地域を相手に紹介しよう、そういった紹介動画を作ろうという発展的な活動も紹介されています。

教育出版では、単元末に多くのワークシートがあるのですが、こちらを活用して、掲示物などを作成するということができます。

また、光村図書では、110ページ、All About Meというポートフォリオのような、このような単元がありますが、1年間で、自分のことについて英語でまとめるような単元、こちらも子どもたちは大変喜んで活用するのではないかと思います。

また、啓林館は、6学年教科書33ページの、Activityの紹介にあるように、外国の人に来てもらえるように日本の魅力を紹介しましょうと、ALTでも、知り合いの方にも、日本の魅力を紹介しましょうということで、目的意識を持って取り込むことができる活動が設定されています。

○宇田川久美子委員 今の説明の中で、子どもたちが発表して、それで動画を撮ることが楽しくとおっしゃっていましたが、例えば、決まった時間の中で、そこまでをまとめて時間内にすることは可能なことですか。

○説明員 可能だと思います。各教科、タブレットを使用して授業をしているので、今までは、何かカードをつくることなど大変時間がかかっていましたが、創作活動に英語の時間を費やすことになってしまうので、そういう画像などはすぐネットで取り込むことができ、その画像を見ながら紹介する、例えば草加の写真をたくさん読み込んで、言語活動で、英語を使うことにフォーカスを当てて、そちらの練習時間に時間を割くというような授業が多く展開されているように思います。

○加藤由美委員 書くことも大事だと思いますが、教科書に書き込む他に、ノートなども使用されますか。

○説明員 基本的には、教科書の中に書き込む活動がなされるようになっていると思います。

○加藤由美委員 教科書に書き込むという事で、教科書の大きさによって、書きやすい、書きづらい、そういうような子どもたちの声があれば教えてください。

○説明員 各発行者とも、子どもたちが書きやすいようなサイズは工夫されていると思います。書き写すというところまでが目標となっていますので、あまり大きいと逆に書きづらかったりしますので、大変書きやすい、薄いグレーのラインが書いてあって、その上をなぞるなど、最後の単語の部分だけ自分の単語を探して書き写すというような単元が多いかと思います。

○山本好一郎教育長 私から一点だけ、各者Activity、それぞれ単元のまとめの活動がすごく

工夫されています。特に、コミュニケーションを図る、そういったものがかなり割合的に多く、そういった傾向は調査研究の中でありますか。それとも大体各者、読む・書くの割合的なものは、同じような形で扱われているのでしょうか。

○説明員 比率としては、小学校英語は聞くことを多く取り入れて話す活動、最後に読む・書くが少しという形ですが、各者とも多少、言語活動のその数には、ばらつきがありますが、一つ一つをどのぐらい時間かけて行うかにもよると思うので、数にばらつきはありますが、授業で取り扱うその比率については、偏りはないかと思います。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

次に、「小学校 特別の教科 道徳」の選定資料の報告に入らせていただきます。

<小学校 特別の教科 道徳>

○山本好一郎教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 「特別の教科 道徳」の教科書について、ご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、ねらいとする道徳的価値の意義を理解し、児童が自己の生き方についての考えを深める必要があります。また、学習内容を自分ごととしてしっかりと捉え、内面にある本音や人間の弱さに向き合うことで、自分はどうするべきなのか、自分に何ができるのかを判断し、実行する手立てを考え、実践しできるようにしていく力を高めることが大切であると考えます。これができるようになるためには、自己肯定感や自己有用感を高めていくことは必須です。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、1つ目が、多様な考えを引き出す工夫、2つ目が、価値理解・人間理解・他者理解を意識した学習でございます。

次に、各発行者の特色・特長についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。5年生の37ページをご覧ください。「いじめについて考えよう」のコーナーが、どの学年にも設けられています。ここでは、身近にあるいじめに関する教材文を通し、自分はどうしたら良いのかを考えさせています。それを受け、42ページでは、子どもの権利条約を学習します。ここでは、差別の禁止や生きる権利、育つ権利をはじめ、守られる権利が、世界中の誰にでもあることを学びます。これを受け、教材文を通して話し合います。仲間の良さ、自分の良さに気付き、伝え合うことで、自己肯定感や自己有用感が高まるようになっていきます。68ページをご覧ください。ここでは、海洋プラスチックゴミを減らすためにという内容で、私たちが何気なく捨てたレジ袋やペットボトルが海に

たどり着き、ウミガメがその中で泳ぐ写真から、自分自身の行動を振り返るようにしています。環境問題やSDGsにも触れ、地球の未来を守るために、今自分たちができることは何か、主体的な学びができるようにしています。184ページには、心情円が付いており、すぐに使えるものになっています。また、心情スケールや心の地図、心のメーターなどもあり、いろいろなツールを使って、自分の心の中を見つめられるように工夫されています。

次に、教育出版についてご説明いたします。3年生の54ページをご覧ください。「悪いのはわたしじゃない」を読み、教材文を通して、みんなでいじめについて考えます。教材文の最後である58ページの「やってみよう」では、自分が、わたしだったら何と声をかけるのか、わたしの役になって演じることで、自分の心の中を出せるよう工夫されています。また、63ページには、いじめて笑いものにする・陰口を言う・物を隠す・無視する、などの具体例を挙げ、いじめについて考えます。こうしたいじめがどうしたらなくなるのか、みんなで話し合いをすることで、さらに自分ごととして捉えさせます。120ページをご覧ください。手伝う心について学習をします。ここでは、車椅子で生活をしているひろみさんの気持ちや、役に立ちたいと思うわたしの気持ちについて、実際に役を演じながら考えさせる工夫があります。また、手伝いを断る場面についても、多面的・多角的に深く考えさせる工夫があります。さらに、156ページには、資料として、お互いの考え・意見をりかいし合うコーナーが設けられており、コミュニケーション力を高めるためにはどうしたら良いのか考えるための工夫があります。

次に、光村図書出版についてご説明いたします。4年の29ページをご覧ください。「演じて考えよう」では、演じている人の表情や仕草から気持ちを感じ取らせる工夫があります。また、発表の仕方の例を挙げることで、児童がそれをもとに自分の言葉で発表しやすくできるよう工夫されています。左下にある二次元コードを読み取ってみると、「演じて考えよう」の進め方につながり、児童同士で学習が進められるよう工夫がされています。66ページをご覧ください。考える準備たいそうがあり、話し合いながら考えを深めていけるように、話し合いの仕方の練習ができるよう工夫されています。これにより、児童が主体的に学習を進められ、自分の考えと友達のことを比べたり、まとめたりする力がつくようになります。81ページをご覧ください。考えよう・話し合おう・つなげようのコーナーがあります。これにより、児童同士が教材文を読んだ後、主体的に話を進めていくにはどうしたらいいか、分かりやすく示されています。さらには、ページ下の考えるヒントを活用することで、自分の考えをさらに深く見つけることができます。

次に、日本文教出版についてご説明いたします。教科書に道徳ノートが別冊でついているの

が特長です。6年生26ページをご覧ください。全ての資料名の横に、リード文やキーワードを設けています。「心づかいと思いやり」では、気配りのリレーを読み、28ページの4.行為の意味、から、「思い」を「思いやり」に変えるには、何が大切なのかを話し合いをします。これを受け、30ページには「ぐっと深める」のコーナーがあり、車いすに乗る体験を通して、自分ごととして考えさせ、それを通して、人の気持ちを考えさせるようにしています。149ページをご覧ください。「心のベンチ」が設けられています。ここでは、いじめと法律について学習します。二次元コードがあり、タブレット等で読み取ると、子どものSOSの相談窓口につながっているため、苦しんでいるが、悩みを口に出せないでいる児童を救うための手がかりともなっています。別冊の道徳ノートは、教科書で学習したことを毎時間書き込んだり、二次元コードを利用したりして、ノートのデータを保存することもできます。1年生の道徳ノート、4ページには、入学当初で、まだ文字を書くことが難しい児童へも使いやすく、絵を見て丸をつけられるよう工夫がされています。

次に、光文書院についてご説明いたします。6年生、6ページをご覧ください。「いろいろなやり方で考えてみよう」があります。気持ちの変化を表すときに使う心情曲線や、情報を整理したり、それぞれの立場に立って考えたりするときに使うYチャートやXチャート、くらげチャート、フィッシュボーンなどいろいろな方法があることを学びます。88ページをご覧ください。「レジリエンス へこんでも立ち直る心の力」が設けられています。自分の良さを再認識し、前向きに生きる大切さに気付くため、発達段階に応じて、学年ごとのワークや関連教材とつなげるコラムも配置しています。2、4、6年生で同じイラストを用いることで、児童の心に印象深く残るよう工夫がされています。164ページをご覧ください。「みんなで作るわたしたちの未来」のコーナーがあります。ここでは、SDGsと、この道徳の教科書に載っている教材名との関連性が示されています。例えば左中段の、ジェンダー平等を実現しようでは、児童に思い込みや偏った見方をしないようにするためにはどうしたらよいのだろうかと呼びかけ、主体的に話ができるよう工夫されています。

次に、株式会社Gakkenについて説明いたします。5年生48ページをご覧ください。心のパスポートでは、Aさん、Cさん、周囲の人の立場をそれぞれ考えさせることで、物事を多面的・多角的に考えさせています。これにより、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちも考えさせ、本当はどうしたら良いのかに迫ることができます。93ページをご覧ください。多様性を重視し、それぞれの立場や違いの良さについて考えさせる工夫があります。誰もが使いやすいように工夫するユニバーサルデザインの教材を通して、多様な人たちとともに生きることについて



話し合います。また、女性医師の荻野吟子の教材文を通して、男女差別について考えさせています。これらを受け、102ページには4コマ漫画になっている「どう思う」を見て、ふつうって何だろうをテーマに話し合います。112ページをご覧ください。教材文のタイトルの下にキーフレーズが書かれています。教材中の印象的な言葉に触れることで、教材への関心をかき立て、スムーズな導入を行うことができます。この教材文は、情報モラルに関することが中心ですが、日常生活の中で何気なくやってしまうことを身近な問題として扱っています。説明は以上でございます。

○山本好一郎教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○峰崎隆司委員 草加市の実態を踏まえた調査の観点の中で、他者理解を意識した学習ということが先ほどございましたけど、それに適した題材・教材であるっていうことは、各者どんなところにあるのか、参考にできるところがあれば教えていただければと思います。

○説明員 他者理解についてですが、まず他者理解というのは、道徳的価値についての感じ方・考え方は一つではないということになりますので、それについては実は、どの教材であっても、どの発行者であっても、担任が自分のクラスの子どもたちの実態を鑑みて、どのように取り組んでいくかということで、話し合いのゴールの先にあることが他者理解なのかと思います。

○峰崎隆司委員 特定な教材ではないという事でよろしいですね。

○説明員 はい。

○川井かすみ委員 多様性について、各発行者、どのぐらい内容を扱っているのでしょうか。

○説明員 今回は非常に多いということがあると思います。どの発行者についても、非常に、コラムとして扱っているものもあれば、実際にどのように話し合いにもっていったらいいのかということもありますし、先ほども申し上げましたように、そのクラスの実態や発達段階によって、どういやすのかということにはなってくるかと思います。今回、非常に多いということが印象的にはございます。

○加藤由美委員 光文書院の88ページで、個人的な意見ですが、へこたれないという事が、私は一番生きるために大事なことではないかと思っているのですが、この、へこたれないというような事を題材にした、他の発行者で題材にされているようなところがあれば教えていただきたいと思います。

○説明員 学習指導要領の中に、実は、へこたれない、前向きに生きるっていうところに、不撓不屈ですとか、そういうものを扱っているものは各発行者にもございますので、今回はこの

発行者ではこれが特化としてそのコーナーとして設けられているところではありますが、各発行者にも似たような教材がございますので、取り上げ方次第というところがございます。

○宇田川久美子委員 表紙ですが、各者道徳ってということで、例えば「君が一番光るとき」や、「はばたこう 明日へ」とある中で、Gakkenさんは、「みんなの道徳」という名前だけで、特に各学年でサブタイトルみたいなもの、表紙にないですが、そこには何か、他に意図が、むしろ他の発行者にあるのか分かりませんが、特に挙げてないというところの意味みたいなものは、何かありますか。

○説明員 おそらく、発行者ごとにテーマはあると思いますが、あえてそれを表示しないということが、その発行者の特色にはなってくるのかと思います。

○小澤尚久教育長職務代理 考え議論するという観点で、重点にも多様な考えを引き出す工夫とあり、特にたくさんある中で、いろいろな工夫があると思いますが、草加の子どもたちが活用するに当たって、草加の子どもたちに合っているというところがありましたら、いくつか教えてください。

○説明員 まず、クラス、例えば5年1組と5年2組と5年3組とあれば、それぞれカラーが違うと思いますが、同じような内容項目であっても、特化していくところ、この時間にはこの子は絶対に何か変容させたいというねらいは教員が持っているかと思います。でも、そういった中ではいろいろなところでどの発行者も工夫されていて非常に良いと思います。昔でしたら教材文だけを読んで、それについて主人公の気持ちだけを追うということが昔のスタイルでしたが、今はそれについて、あなたはどうか考えるのかというところで、子どもたちで、まず自分で考えて、今度は友達同士で意見を寄せ集まったときに、そういう考えもあるかもしれないという部分が、今回の考え、議論する道徳で大切にしているところなので、当然子どもたちの人間関係やクラスの雰囲気、意見を言っても、ちゃんと受け止めてもらえるような雰囲気づくりがまず大事になってくるかと思います。そういったところでは、草加の子どもたちにとって、どれを扱っていくのも大事だと思います。

○川井かすみ委員 最近、簡単に闇バイトができるような世の中になってしまって、SNSから徐々に誘導されて、犯罪に巻き込まれるというケースもあります。そういった情報モラルについて、特徴的な発行者があれば教えてください。

○説明員 情報モラルについては、どの発行者も非常に工夫されていまして、実は1年生であっても、扱いについては触れている発行者もございます。とにかくその、6年間を通したときに、いろいろな発行者が工夫をされていて、段階的に特化している発行者もあれば、どの発行

者も今回はすごく扱っていることが印象的でございます。

○宇田川久美子委員 二次元コードを各単元につけている発行者もあれば、ほとんど教科書の中に出てこない発行者もあるようですが、付ける事での何かメリット、道德だったらどんなことがありますか。

○説明員 45分の中で、考え・議論する道德をしていかなければいけないと思うので、例えばその、年間を通した中で、ここの単元については、例えばですが、美しい映像や自然、感動するその心など、そういったものはなかなか見られるようで見られないので、そういうことは二次元があるもので使って見せてあげることで、触れることが一つできるかと思います。また、家に本を持って帰って、例えば、タブレットなどで、草加は今、タブレットを持って帰ることはできませんが、そういった中で、そこで使って、発展的な学習として使うということもできるかと思います。

○山本好一郎教育長 私から1点だけ。先ほど説明の中で、荻野吟子の資料教材、あえて取り上げられたわけですが、これは以前からあったのか、ここで新たに入ってきている教材なのかいかがですか。

○説明員 元々ここについては、「彩の国の道德」で扱っていたところでもございますので、急に出てきた資料ではないと思います。

○山本好一郎教育長 ということは、改めて、共に生きるというテーマ性の中で取りまとめたということで、調査研究の中で取り上げられたということですね。

○説明員 はい。

○山本好一郎教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、ここまでの報告を終えさせていただきます。

〈採択〉

○山本好一郎教育長 これより、「家庭」「保健」「外国語」「道德」の教科用図書の採択に入ります。

それでは、投票用紙をお配りいたします。投票用紙、皆様お手元にございましたら、ご記入の方をお願いしたいと思います。

記入の方はお済みでございますか。

それでは次に、投票箱に何も入っていないことを確認したいと思います。

(「空でございます」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 投票箱に何も入っていないことが確認されました。皆様よろしいでしょうか。それでは、宇田川委員から時計回りで投票箱に投票をお願いいたします。

( 投 票 )

○山本好一郎教育長 それでは、開票につきまして宇田川委員立ち会いのもと、事務局で確認をいたします。

( 開 票 )

○山本好一郎教育長 それでは集計結果を発表いたします。

初めに、「家庭」でございますが、開隆堂出版株式会社6票でございますので、開隆堂出版株式会社といたします。

次に「保健」でございますが、東京書籍株式会社2票、株式会社大修館書店4票でございますので、株式会社大修館書店といたします。

続きまして「外国語」でございますが、開隆堂出版株式会社2票、教育出版株式会社1票、光村図書出版株式会社3票でございます。それぞれ2票、1票、3票ですので、過半数に至らず、3票同数にもなっておりませんので、5点満点評価による再投票を行います。合計点が、過半数に達したものの中で、最も高いものを採択いたします。5点満点評価でございますので、1者に入る点数は最大で30点となりますので、過半数は16点からとなります。それでは改めまして、投票用紙を配付いたします。

それではご説明いたしますので、お願いいたします。まず全ての発行者に5点満点で評価をお願いします。ただし、必ず1者に5点を付けてください。それ以外の発行者につきましては、それぞれ1点から4点の間の評価をつけてください。以上でございます。何かご質問はございますか。

それでは、投票用紙もお手元に届いていると思いますので、ご記入の方をお願いいたします。

それでは改めまして、投票箱の中が空か確認をいたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○山本好一郎教育長 投票箱に何も入っていないことが確認されました。皆様よろしいでしょうか。それでは、川井委員から時計回りで投票箱に投票をお願いいたします。

( 投 票 )

○山本好一郎教育長 それでは、開票につきまして川井委員立ち会いのもと、事務局で確認をいたします。

( 開 票 )

○山本好一郎教育長 それでは集計結果を発表いたします。

東京書籍株式会社 11 点、開隆堂出版株式会社 20 点、株式会社三省堂 9 点、教育出版株式会社 18 点、光村図書出版株式会社 24 点、株式会社新興出版社啓林館 10 点。以上の結果で、過半数に達して、なおかつ一番高い発行者、光村図書出版株式会社といたします。

それでは続きまして、「道徳」でございますが、東京書籍株式会社 1 票、株式会社Gakken 5 票でございますので、株式会社Gakkenといたします。

以上をもちまして、第 40 号議案につきましては決定をいたしました。

---

○山本好一郎教育長 続きまして、その他の報告がございましたらお願いいたします。

○教育総務部長 特にございません。

○山本好一郎教育長 その他の報告がないようでしたら、次回の教育委員会の日程について事務局からお願いいたします。

○教育総務部長 次回の教育委員会の日程についてですが、令和 5 年教育委員会第 8 回定例会を 8 月 23 日水曜日、時間は午前 9 時から教育委員会会議室でお願いしたいと思います。

---

◎閉会の宣言

○山本好一郎教育長 それでは以上をもちまして、本日の委員会を終了いたします。

午後 4 時 5 分 閉会